

Yawaragi

Gakushuin Women's College

VOL.21
2018年度



2019年3月

Yawaragi

学習院女子大学だより

やわらぎ

第21号

2018年度

Contents

- P. 3 学長からの挨拶
- P. 4 開学20周年記念同窓会の報告
- P. 5 開学20周年記念同窓会に参加して
- P. 6 皇太子殿下特別講義
- P. 7 伝統文化講座を通じた国際交流実施報告
- P. 8 特集：世界の中の日本
- P. 10 ルワンダ国際協力研修
- P. 11 中欧国際協力研修
- P. 12 授業紹介 英語コミュニケーション演習
- P. 13 授業紹介 学芸員課程
- P. 14 国際文化交流研究科(大学院)
- P. 15 国際学研究所だより
- P. 16 2018年度 特別授業の紹介
- P. 18 新任専任教員紹介
- P. 20 学習院女子大学学会より
- P. 23 本学で開催された学会・研究会
- P. 24 海外留学報告
- P. 27 国際交流推進センター行事報告
- P. 28 留学制度について
- P. 29 輔仁会団体紹介
- P. 30 雅祭を終えて
- P. 31 「和祭」を振り返って
- P. 32 学習院女子大学の就職力
- P. 33 内定者からの声
- P. 34 キャリア支援部より
- P. 35 学習院父母会の近況報告
- P. 36 草上会からのお知らせ
- P. 38 学習院女子大学専任教員紹介
- P. 39 専任教員著書の紹介
- P. 40 図書館からのお知らせ
- P. 41 学習院女子大学データ
- P. 42 Topics



学長からの挨拶

学習院女子大学長 神田 典城



みなさんごきげんよう。

学習院女子大学は、今年度、開学20周年を迎えました。

あらためてこの20年を振り返ってみると、かなり順調に歩みを進めてきたと言っていると思います。

もちろん「開学」と言っても、何も

ないところにいきなり建ちあげたわけではなく、その前に50年に及ぶ短期大学の歴史があり、その伝統と実績の上に、時代の潮流に沿うべく4年生の女子大へと改組したのは皆さんご存知と思いますが、現在在学の皆さんにとって、その学習院女子短期大学、通称「学短」についてはほとんど知識が無いことだと思います。もちろん、学短の卒業生のお子さんが入学している例もありますが、全体としては例外に属するでしょう。

そこで今日は、女子大学の母体となった学短について、いささか記しておきたいと思います。

第二次世界大戦後、官立から私学へと学習院は大きく転換を遂げましたが、その大きな変革の流れの中で、1950年4月28日に開講式を挙行、学習院大学短期大学部として産声を上げました。その年の8月には、明治10年に学習院が神田錦町に創立された時の正門が、この戸山キャンパスの正門として設置されました。あの赤門はそれ以来、戸山キャンパスの変遷を見続けているのです。また、11月には皇后陛下が授業参観をなさってもいます。

そして、1953年6月に学習院女子短期大学と改称、名実ともに

独立した一つの大学としての歩みを始めたのです。それ以来、女子大学に改組するまで、半世紀に及ぶ時を刻んだのでした。その間に多くのすぐれた卒業生を輩出して来ました。

現在学習院女子大（以下「学女」）は大変に就職率の高い学校として知られていますが、そのベースになっているのは、学短の卒業生が培った社会的信用と無関係ではありません。当時世間では名門女子短大として青山女子短期大学、東京女子短期大学、そして学習院女子短期大学が「短大御三家 学短・青短・東短」と並び称されていました。

永井元学長が学生部長をなさっていた時、私が学生委員の一人として、企業訪問にご一緒したことがあります。さる銀行の人事担当者との面談で「学短からどれだけとれるかで、人事担当者の手腕が問われる」と言われたのをよく覚えています。話半分としても、当時の学短の社会における立ち位置の一端はうかがえるかと思います。実際のところ、例えば日本銀行に二桁の人数が採用されたりもしていたのでした。

もちろん、現在の学女が、学短の遺産を食いつぶしているというよう

うなことが言いたいのではありません。いくら良い伝統を引き継いだからと言って、そこに安住して何もしなければ、20年も経てばじり貧になっただろうことは目に見えています。

この20年間、学女は学生教職員一丸となって、他の先行する、伝統も実績もある女子大学に伍して、断続的な努力を積み重ねてきたのは紛れもない事実としてあります。その努力の成果が、在学生の学校に対する満足度の高さ、就職率の良さといった、目に見えるデータとなって表れています。また様々な大学ランキング調査などでも、教育力の高い学校として取り上げられたりしています。

このように、現在この女子大学はかなり高い社会的評価を獲得しています。このことは現在の私たちの努力の精華として誇っていることに違いありません。

けれども、女子大学として発足するにあたって大きなアドヴァンティ지가あったということは、事実として認識しておきたいと思うのです。

今、私たちは過去を見つめ、未来に踏み出す、その思いを新たにしているところです。

開学20周年記念同窓会の報告

事務統括部長 柏崎雅博

平成30年10月14日(日)、本学の開学20周年を記して、「記念同窓会」の催しを行いました。「記念同窓会」と称したのは、本学のバックグラウンドとして、女子短期大学の50年の歩みがあることから、女子短期大学の卒業生と本学の卒業生、そして両大学の教職員という広い意味での同窓が、この戸山の地に一堂に会して、来し方と未来を語り合う日にした

という神田学長の思いを反映したものでした。

当日は、11時から、2号館やわらぎホールを会場にして、学長挨拶に続き、10分間の記念映像放映からスタートしました。映像は、短大時代からこれまで撮りためてきた数多くの写真をスライドショーにまとめたもので、和祭や入学式、卒業式等の様子が写っており懐かしい顔が現れる度に、会場のあちらこちらで歓声があがり、会場の皆さまは、学生

時代にタイムスリップしたような思いでご覧になっていたのではなかろうか。

これに続いて、元学長で本学名誉教授であります永井和子先生の記念講演が行われました。永井元学長は、戸山の学び舎の思い出をユーモアを交えて語られ、多くの聴衆が、かつて教室で永井先生の講義を受けた記憶が蘇るようなお思いをされたことと存じます。

記念講演のあとは、12時過ぎより、会場を3号館(互敬会館)メインホールに移し、桜友会長の祝辞、草上会長の乾杯の音頭で祝宴を開宴いたしました。趣向を凝らした色とりどりの軽食やドリンクをいただきながら、かつての仲間と再会を喜び合うお姿、記念写真に興じられる様子、恩師に近況をご報告しているお顔など、会場全体が笑顔に包まれました。



祝宴の途中には、神田学長自らが弦を弾かれての弦楽四重奏がメインホールに響き渡りました。「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」他2曲の調べは、いやが上にも会場の雰囲気盛り立てていただきました。

折りしも祝宴前にわずかながら降った雨粒が潤した中庭では、チアリーダー部学生の演技やジャズダンス部ACDAのパフォーマンスがあり、華やかなガーデンパーティーの会場に彩りを添えました。メインホールには写真部によるフォトポスターが展示され、茶道部や美術部の学生による「おもてなし」やワーク活動も同時開催されました。また、催し全体の放送は、放送部の学生の協力によるものであり、在学生が数々の催しに込めた歓迎の思いは、卒業生の皆さまに届いたのではないかと思います。

そのほか、文化交流ギャラリィで

は桜再生プロジェクトの展示、学生研究室では歴代の卒業アルバム閲覧をしていただくコーナー等も用意し、ご鑑賞いただいたご卒業生も多くおいでになりました。

20年という年月は、人間の年齢に例えますとようやく成人になったばかり、大学の歩みとしては、まだまだ基礎固めが為された頃とも言え、これから発展と成熟に向かって引き続き努力していかねばなりません。この度の記念同窓会は、女子短期大学が担った教育が確かなものであったことを確認すると共に、本学にとっては、教育と研究の更なる発展を誓う日となりました。また次の節目に、このような幸いが迎えられるよう、職員としても全力を尽くして参りたいと存じます。最後になりましたが、この催しを支えてくださった全ての皆さまに紙面をお借りして感謝を申し上げます。

開学20周年記念同窓会に参加して

2018年10月21日(日)に行われました開学20周年記念同窓会に、私たちはジャズダンス部AQUAとして、参加をさせていただきました。

普段から、ホールの舞台上や体育館等での発表が多いのですが、学内の中庭という屋外で沢山の卒業生や先生方に間近で発表をさせていただけたことが、記憶に残る晴れやかな舞台となりました。屋外の発表で、慣れない雰囲気であったり、緊張しすぎて普段同様のダンスを披露できるかどうかといった不安はありましたが、何よりも沢山の先輩方が足を止めて見てくださったこと、盛大な拍手と

お褒めのお言葉を終演後にいただいたことがとても嬉しかったです。

開学20周年という記念行事にこのような光栄な機会をいただくことができ、部員一同、感謝の気持ちでいっぱいです。

今後とも、学習院女子大学の名にふさわしい部活動を続けていけるよう、精進いたします。

大変貴重な行事に参加をさせていただき、ありがとうございました。

ジャズダンス部AQUA

大塚 千穂



私たち美術部は、今回の開学20周年記念同窓会に、会場装飾と水彩はがき作成ワークショップで参加させていただきました。

参加のお話をいただいたときは、開催日が学園祭の翌週ということで、準備が間に合うのかと不安でした。しかし、学園祭の準備の間に部員たちが積極的に手伝ってくれ、素敵な垂れ幕やアーチを完成させることができました。

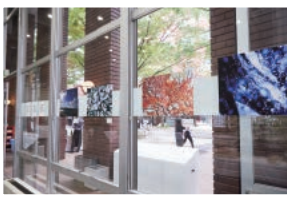
美術部は個人での作業が中心です。みんなが集まり、協力して作品を完成させるということがほとんどありませ

ん。今回、このような機会をいただいたことで、美術部として共に活動しているという実感を得られ、部員たちの絆が深まったことは、本当に良かったと思います。

最後に、今回お話をくださった事務運営課の皆さま、会場にお越しくくださった皆さま、作品やワークショップをご覧くださった皆さま、そして何より、快く協力してくれた部員のみんなに、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

美術部 石井 美帆

高橋 伶奈



皇太子殿下特別講義

国際文化交流学部長 時安邦治

平成31年1月23日午後、ご多忙の中、皇太子徳仁親王殿下が本学にお見えになり、90分のご講義を行ってくださいました。皇太子殿下のご講義は今年で14回目を数え、これまでご自身のご研究やお仕事と関連するさまざまなテーマについてお話しくださいています。

今回のご講義は「史料と向き合う——40年の研究生活を振り返って——」というタイトルで、学習院大学の学生時代、オックスフォード大学での留学時代、学習院大学史料館の客員研究員として研究を続けられた時代という3つの時期に、殿下ご自身がどのように史料を入手され、それを深く読み込み、研究成果につなげられてきたかを、殿下が実際に研究された具体的な史料をとりあげながら丁寧に説明くださいました。

学習院大学文学部史学科に入学さ

れた皇太子殿下は、初めの頃は日本の中世の陸上交通にご関心をおもちでしたが、やがて当時まだそれほど研究が進んでいなかった瀬戸内海の海上交通を研究テーマとしてお選びになります。卒業論文では『兵庫北関入船納帳』を史料として、兵庫の港の間丸がどのような荷物を、どこからどこへ、どれくらいの量を、どのように運搬したかを明らかにされたとのことでした。

オックスフォード大学のマートン・コレッジでは、指導教授のチュートリアルのために相当な勉強をされたそうです。その際、教授の指導はもとより、図書館の司書や文書館のアーキヴィストなどが豊富な知識を背景に、適切な文献の案内をしてくれたことが大いに役立ったとのことでした。皇太子殿下は留學生活の成果として、テムズ川の交通史についてご著書をまとめ、公刊されました。

学習院大学史料館の客員研究員になられてから、皇太子殿下は「西園寺家文書」と出会われ、この文書の研究に取り組んでこられました。やがてご研究は牛車の絵図の研究にも発展していき、また『西園寺家車図』などの牛車の絵図については、すでに以前のご講義でお話しくださっています。

史料を深く読み込み、そこからできるだけ多くの情報を引き出し、新たな発見につなげていくという研究のご姿勢は、学習院大学時代の指導教授のゼミナールなどで基本を身につけられ、その後のご研究生活で常に実践してこられ、現在に至っておられます。また、昭和天皇、今上天皇が研究者のモデルとして身近におられたのも、皇太子殿下の研究者としての自己形成に大きな意味をもったように思われます。

ご講義の最後に、皇太子殿下はモンゴメリの『赤毛のアン』の一節を引かれ、また「アンは自分の人生を道に喩えて、『でも、今、その道は、曲がり角に来たのよ。曲がつたむこうに、何があるか分からないけど、きっとすばらしい世界があるって信じているわ』と語っています。研究も、最初のうちはどういう結果になるかが見通せないものですが、丁寧に史料に向き合い、深く史料を読み込んでい

くうちに、思いもしなかった新しい発見に出会えるかもしれません。皇太子殿下が引かれたアンの言葉は、まもなく本学を卒業して社会人になろうとする学生の心に、励ましのお言葉として強く響いたのではないのでしょうか。

ご講義を終えられた後、皇太子殿下は別室で学生たちと懇談され、その場においても学生の質問に丁寧に、その場ださり、緊張する学生を解きほぐすように会話を進めてくださいました。14回にわたって本学でのご講義をしてくださった皇太子殿下に、心より感謝を申し上げます。



伝統文化講座を通じた 国際交流実施報告

国際コミュニケーション学科 教授 畠山圭一

「海外派遣事業」

① 伝統文化講座・茶道指導

平成30年10月26日

ブリティッシュ・コロンビア大学
— 伝統文化講座

講義「宗旦稲荷の伝承と、道具の妖怪つくも
神」

展示・解説：「絵巻・錦絵・ちりめん絵本に見る
妖怪」

講師：徳田和夫（本学教授）
— 茶道講座

講義「KREI SABOの世界」

講師：茶道指導：小堀宗実（遠州茶道宗家
元、学習院父母会長）

補助：川野美咲（日本文化学科3年）
横澤春佳（日本文化学科2年）

平成30年10月26日、27日の両日、本学主催に

よる『日本伝統文化講座』及び記念茶会がカナ

ダ・バンクーバーのブリティッシュ・コロンビア大

学（UBC）にて開催され、本学から選抜派遣

された2名の学生が、両日ともに茶事の補佐

役を務めました。

10月26日に行われた一般公開の伝統文化講

座と茶道講座は、学習院同窓会「校友会」バン

クーバー支部、日系人諸団体、UBC、総領事

館、「バンクーバー新報」等による広報のお陰も

あり、学生・大学関係者・一般来場者を中心に、
いづれの会場も満席となる盛況ぶりでした。
徳田和夫教授による文化講座では、茶道に
まつわる伝承説話をとり上げた講義「宗旦稲

荷の伝承と、道具の妖怪つくも神」と展示・解説
「絵巻・錦絵・ちりめん絵本に見る妖怪」が行わ
れ、約90名が受講しました。また小堀宗実・遠
州茶道宗家元による茶道講座「KREI SABO
の世界」では160名が受講しました。両講座
共到大変好評で、参加者の多くが異口同音に日
本文化の奥深さに触れた感動の声を寄せてく
れました。両講座の終了後には受講者への「呈
茶」が行われ約110人が出席しました。

② 記念茶会

平成30年10月27日

新渡戸稲造記念庭園内・茶室「望庵」
— 茶会

亭主：小堀宗実（遠州茶道宗家元、
学習院父母会長）

補助：川野美咲（日本文化学科3年）
横澤春佳（日本文化学科2年）

主な招待客：

Wendy Yip
（ブリティッシュ・コロンビア大学学長夫人）

Ricky Yada
（ブリティッシュ・コロンビア大学資源食糧学部長）

Shirley Nakata
（ブリティッシュ・コロンビア大学評議会議長）

Gordon Kadoha
（バンクーバー日系コミュニティ長老）

Sandy Wilson
（映画監督、カナダアカデミー賞6部門受賞者）

Bill Richardson
（カナダ放送協会アナウンサー、著名作家）

Ruth Coes
（日系ビジネスヘルスケア&住宅協会 理事長）

Akiko Gonyo
（日系文化センター・博物館 理事長）

Roger Lemire
（日系文化センター・博物館 館長）

Gabriele Meon-Tschürtz
（外務省アジア部長）

Antonia Heescheilmann
（現代美術館19世紀・20世紀美術部長）

10月27日、世界屈指の本格的日本庭園とし

て知られる新渡戸稲造記念庭園にて、本学と
UBC及びバンクーバー総領事館との共催に
よる記念茶会が開催され、ブリティッシュ・コロンビ
ア州を代表する文化人及び日系人社会の長老・
重鎮の方々をご招待しました。

「英語による 伝統文化講座（茶道）」

期間：①平成30年5月10日～7月19日
（全10回）

②平成30年10月4日～12月13日
（全10回）

参加学生：8名

— 指導：小堀宗翔（遠州流茶道宗家）
後藤宗典（遠州流茶道宗家）

本学に在籍する外国人留学生、協定留学生、
外国人研究員・研究生・大学院生を対象に、日
本の伝統文化に対するより深い理解を促すた
めの「英語による伝統文化講座（茶道）」が実施
されました。

春学期と秋学期にそれぞれ10回の講座が行
われ、茶道の歴史や理論を学ぶことから始ま
り、ほとんど茶道経験がなかった受講者も、講
座終了までには一通りお茶をたてることもで
きるようになりました。

慣れない正座に苦労しながらも、お茶を通し
て客人をもてなす日本の茶道文化に触れるこ
とができました。

なお、本事業は、3年間の事業として一昨年
度から実施され、本年度で終了しますが、3年
間の成果は、今後の大学教育及び国際交流の発
展に大きく寄与するものと思います。





特集

世界の中の日本

学習院女子大学から発信するオリンピック・ムーブメント
～オリンピック/パラリンピック・リテラシーの成熟に向けて

日本文化学科教授 荒井啓子

れたカードをくるりと返して「Olympic 2020」の文字を示した瞬間の映像は、多くの人々にとって印象的な光景であったのではないだろうか。

『学習院女子大学 オリンピック研究・教育 プロジェクト』の発足

この決定を受けて、近代オリンピックの根本精神である「オリンピックイズム」に基づき、その教育的価値を広めていくとする「オリンピック・ムーブメント」が、大学教育の中でも多様に動き始めました。本学では、2014年9月、大会組織委員会と全国761の大学が締結した『2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けた大学連携』（2018年11月現在806大学）に加わり、「オリンピック」の浸透をはじめとする「オリンピック教育」を学習院女子大学の特徴に照らして推進することとなりました。その一環として、2014年11月、『学習院女子大学 オリンピック研究・教育プロジェクト』が発足し、文化への複眼的な視点をもつ本学「国際文化交流学部」に相応しい学際的で超領域的な研究・教育の試みが始まりました。本プロジェクトでは、共通科目における「特別総合科目XI（オリンピックの探究）」の開講と国際文化交流ギャラリー（2号館1階）における展覧会の開催

を主な内容として進めています。「特別総合科目XI（オリンピックの探究）」では、オリンピック・パラリンピックに深く関わる第一線の研究者やジャーナリストをゲストスピーカーとして招聘し、各講師がそれぞれの専門的な立場や視点から講義を展開しています。1896年の第一回大会からこれまで、近代オリンピックの提唱者であるピエール・ド・クーベルタンが想い描いた通りのオリンピックが開催されてきたわけではありません。そこには、政治・経済・人種・メディア・ジェンダー等と関わる厳しい「現実」が内在してきました。本講義では、これまでのいくつかの大会を概観しながら「オリンピックの光と影」に目を向けて、その中からオリンピックを取り巻く社会やそれぞれの時代に映し出される文化のありようを眺め、文化とは何か、オリンピックとは何か、という問題により接近したいと考えたものです。また、2号館1階にある国際文化交流ギャラリーにおけるオリンピック関連の展覧会は、清水敏男教授を中心とする、学芸員課程の学生と大学院アトマネジメント領域の院生との協働によって進められ、これまで『オリンピックの美—東京、札幌、長野』（2014年）、『ゴールするランナーたち』（2016年）、『五輪メモリーズ』（2017年）というテーマで開催してきました。過去のオリンピックにおいて行われていた「芸術競技」や「芸術展示」を彷彿とさせると同時に現在のオリンピック大会

で推進されている「文化プログラム」のモデルとしても学内外において反響を得ています。「芸術競技」は一般的に耳慣れない競技名かと思いますが、1912年のストックホルム大会から1948年のロンドン大会まで計7回続けられ、絵画・彫刻・文学・建築・音楽の5種目が芸術作品として競われました。

「オリンピック」と リベラルアーツ教育

このような講義及び展覧会は、芸術・文化・教育が一体となったプログラムとして、「オリンピック」の浸透やオリンピック/パラリンピック・リテラシーの成熟に向けて企画されたものです。「オリンピックイズム」とは、「肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結

1	オリンピック運動—その運動と現実を語る	荒井啓子（本学教授）
2	オリンピックの歴史	藤川和文（早稲田大学教授）
3	オリンピックと芸術	清水敏男（本学教授）
4	クーベルタンとオリンピック・ムーブメント	田原厚子（国士館大学教授）
5	パラリンピックの歴史と現在	杉山 倫子（順徳大学教授）
6	日本に於けるオリンピックと意識的変遷	高田久（筑波大学教授）
7	戦時社会とオリンピックの平和運動	村本直久（国政大学東京校教授）
8	メディアとオリンピック	藤原昭子（JOC理事）
9	運動家の生涯	荒井啓子（本学教授）
10	オリンピックを動かす人々—文化と政治	斎藤隆子（国政大学教授）
11	オリンピックとジェンダー	東出アサ子（本学教授）
12	リオデジャネイロ大会と五輪の未来	結城利恵子（筑波大学教授）
13	ギリシャのオリンピック復興運動	高田久（筑波大学教授）
14	異文化理解と近代オリンピックの発展	荒井啓子（本学教授）

「特別総合科目XI（オリンピックの探究）」講師一覧（2017）



学習院高等科時代の三島彌彦（2列目の右から2番目、制服を着てひげを生やした人物）
＜学習院アーカイブズ所蔵＞

合させる生き方の哲学である。スポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を追求するものである」と『オリンピック憲章』に記されています。これは、オリンピックが、単なるスポーツの国際競技大会ではなく、世界中の異なる文化をもつ異なる環境の人々がスポーツを通じて集い、互いの文化や生き方を理解し、尊重し、学び合う、好機会となることを意味しています。また、「その生き方は努力する喜び、良い模範であることの教育的価値、社会的な責任、さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする」と謳われる通り、「若者たちの全体性を育む」という人間教育の理念が込められています。リベラルアーツを掲げる本学「国際文化交流学部」の理

オリンピックと学習院

念と深く重なることに気づかされます。

日本が初めてオリンピックに参加したのは1912年のストックホルム大会です。2019年1月から始まったNHKの大河ドラマでは、この大会に出場した二人の陸上競技選手のうち金栗四三を主人公としています。もう一人の初出場者は学習院高等科出身の三島彌彦（1886年～1954年）でした。このオリンピック出場時には彼はすでに26歳の東京帝大の学生でしたので、学習院出身者であることはあまり知られていないようでした。三島彌彦は明治40年学習院高等科の卒業で、明治39年卒業の志賀直哉や武者小路実篤の1学年下でした。ストックホルム大会は三島にとってあるいは当時の日本スポーツ界にとって高く厚い壁だったようです。ですが、それでも後年、彼は「世界は広い」「スポーツは楽しい」と身内に語っていたといわれています。また、日本人初のIOC委員であり講道館柔道の創始者である嘉納治五郎（1860年～1938年）は、東京高等師範の校長でしたが、それ以前は学習院の教頭を務めていました。学習院はスポーツ文化推進の先駆的

役割を担っていたと思います。さらに、学習院の女子のスポーツ教育に目を向けてみれば、1885年（明治18年）に開校した華族女学校は春と夏の2回にわたって運動会を開催していた画期的なスポーツ文化の発信地でもありました。近代オリンピックの第1回アテネ大会においても、当時の女性観等によって女子の参加が認められない時代でしたが、華族という特別な立場にあった人々によって欧米の新しい文化や考え方を受け入れることができた経緯があります。



華族女学校運動会（1904年10月）
＜学習院女子中高等科所蔵・「学習院女子中等科・女子高等科125年史」＞

Toward & Beyond NO NO

「特別総合科目XI（オリンピック

の探究）」のゲストスピーカーでもある結城和香子さん（読売新聞編集委員）は、「オリンピック・パラリンピックは、違いを超えるスポーツを言語に、人々の思いをつなぎ、心に残す力を持つ。私たちはそんな機会をどう生かすのか。あと2年が本場の課題だろう」と、自身の記事の中で述べています。2018年12月、2020年オリンピック・パラリンピック大会まで600日を切りました。オリンピック/パラリンピック・リテラシーを成熟させた学習院女子大学の学生や卒業生の新たな眼差しによって、2020年を広く「文化の祭典」として迎え、そしてその先へ向けた「国際文化交流」の輪を繋げてほしいと考えています。

『第32回オリンピック競技大会』は2020年7月24日（金）～8月9日（日）、東京2020パラリンピック競技大会は2020年8月25日（火）～9月6日（日）に東京で開催されます。



第5回ストックホルム大会開会式
日本選手団の旗手を務める三島彌彦
＜JOAオリンピック小事典、2016＞
（一番左に嘉納治五郎）

2018年度 ルワンダ国際協力研修 ～女性が輝く国から学ぶこと～

国際コミュニケーション学科
教授 伊藤 由紀子

学習院女子大学で実施しているアジア、ヨーロッパ、アメリカでの海外研修に加え、昨年度からルワンダ国際協力研修が始まりました。1994年、3か月間で100万人（ルワンダ政府公式数値）ものルワンダ人が殺されたジェノサイドから20余年、アフリカの奇跡と呼ばれるほど、着実に国の復興、発展を遂げています。千の丘の国と言われ日本の四国ほどの大きさのルワンダは、街にはゴミ一つ落ちていません。そしてジェンダーギャップ指数（G-GI）はなんと世界4位（日本は残念ながら一昨年過去最低を更新し14位）です。

このG-GIは経済活動への参加と機会、政治への参画、教育、健康の4つの領域で男女間の格差がどれくらいあるかを示す指標です。日本の順位を下けているのは経済分野では所得の格差、管理職の女性が少ない、政治分野では女性の国会議員が少ないといった数値です。つまり、政治でも経済でもリーダーとして政策や方針に関わるポジションに占める女性の割合が大変低いのです。これは、女性が望む社会の有り様の決定権を持っていないということを意味します。日本では平成10年前後から共働き世帯が専業主婦世帯より増え、今日では圧倒的に夫婦共働いている世帯の方が多いためです。社会が変わってゆく中、夫婦共にワークライフバランスがとれた住みやすい環境を整備してゆくには、女性がその政策作りにも参画することが重要です。

ルワンダはまさに、女性のプレゼンスが高く、様々な場面で女性が活躍しています。例えば、国会議員の女性の割合は世界一位です（表1参照）。そして女性閣僚の割合も近年は半分かれ以上を占め、直近の内閣改造では30歳前半の女性が大任に任命されました。銀行、教育機関等、色々な職場を訪れると女性が管理職についている姿が目立ちます。こういった背景にはもちろんジェノサイドで多くの男性が殺害され、女性が活躍せざるを得なかったこともあるかもしれませんが、今日のルワンダでは国づくりの重要な取組としてジェンダー平等のための政策を押し進めてきています。

2018年3月にルワンダで研修を実施した際に、ルワンダの女子大学生と交流しました。その際のテーマは「女性が働きやすい環境とは」でしたが、学習院女子大学生は子育てをしながら働くことの難しさを取り上げ、女性が出産・育児で仕事を辞めることがしばしばあることを話しました。それに対し、ルワンダの学生は「なぜ働きたいのに辞めるのか。なぜ夫と分担しないのか。なぜ職場で調整しないのか」と。活発な意見交換を通し、「働きたい、何かをしたいと思うのであれば、誰もがその希望をかなえられる社会を私たち若者がつくっていかう」と語り合いました。

表1 2017年 ジェンダーギャップ指数 日本とルワンダの比較

項目	日本の順位	日本の得点	ルワンダの順位	ルワンダの得点	世界平均
経済活動への参画機会	114	0.580	7	0.820	0.585
労働参加の男女平等	79	0.781	1	1.000	0.667
同種業務の給与の男女平等	52	0.672	1	0.851	0.634
所得の男女平等	100	0.524	6	0.860	0.509
管理職における男女平等	116	0.142	53	0.514	0.320
専門職・技術職の男女平等	101	0.654	97	0.726	0.758
学歴	74	0.991	113	0.951	0.953
識字率	1	1.000	102	0.893	0.883
初等教育	1	1.000	1	1.000	0.979
中等教育（中学校・高校）	1	1.000	1	1.000	0.971
高等教育（大学・大学院）	101	0.926	113	0.763	0.938
健康と生存率	1	0.980	1	0.980	0.956
出生時の男女割合	1	0.944	1	0.944	0.920
健康寿命	1	1.060	1	1.060	1.037
政治への参画	123	0.078	3	0.539	0.227
国会議員の女性割合	129	0.102	1	1.000	0.279
閣僚の女性割合	88	0.188	7	0.900	0.209
女性国家元首の在位期間	69	0.000	53	0.015	0.200

World Economic Forum “The Global Gender Gap Report 2017”より作成
（得点は1に近いほど平等の度合いが高いことを示す）



将来は医者・政治家になりたい学生が多かった！

2018年度 中欧国際協力研修 「難民・民族・貧困の問題を学んで」

国際コミュニケーション学科
教授 中島 崇文

本学の中欧における国際協力研修については2年前の『やわらぎ』第19号にも執筆していますが、その後も毎年欠かさず続いており、2018年夏の研修は12回目となりました(過去2年間は9月前半に実施したジュネーブ研修も継続していますが、今年度は時期を変更して2月末からの実施となり、本号の発行には間に合わないため、次号以降で機会があればご報告したいと思います)。本学のホームページの国際交流・留学の箇所にも幾枚かの本誌とは別の写真と共に紹介していますので、こちらにも合わせてご覧下さい。



が多数売られる等して賑わっていました。しかし、その反面、今年度も訪れた地方のペトリニャ市の中心部の家屋には弾痕が多数残され、また郊外には破壊された保養施設が放置されたままとなっており、1990年代の内戦が未だに尾を引いていることを目にすることとなりました。昨年度に引き続き、僻地にあるドウマチェ村の難民用の新居を見学しましたが、より多くの家具が整えられ、そこでは難民の居住環境は改善されている様子が窺えました。マケドニアでは今年度も南西部ストゥルガ市の20名ほどの小学生や先生が夏休みにもかかわら

ず8月下旬の月曜日の朝9時前に集まってくれて、学女生と協力してボランティアで清掃活動を行い、爽やかな汗をかきました。この小学校で民族舞踊を習っている生徒たちが前の晩に踊りを披露し、途中からは学女生と一緒に輪になって踊るというプログラムもすっかり恒例のものとなり、こうした交流のお蔭でマケドニアという知られざる国がぐっと身近に感じられるようになっていきます。セルビアでは日本大使館やJICA事務所でセルビアやそ



の周辺諸国と日本との関係を教えていただき、対立していたクロアチアとは異なるセルビアの立場を学びました。ベオグラード大学日本語学科の学生約20名も集まって下さいましたが、遠く離れた異国の若者が日本に強い関心を持っていることには改めて感心させられました。特筆すべきは今年度の研修で初めてUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)のセルビア



ヨーロッパで最も貧しい国と言われているモルドヴァでは今年も水道のないカザネシュティ村のディケアセンターを訪問しました。浴衣を着せてあげたり、書道をしたりして子供たちは大喜びでした。親がスペインやイタリア、ロシア等に出稼ぎに行ってしまう、ふだんは寂



事務所のみならず、ベオグラード市のドナウ川の北側のクルニャチャ地区にある中近東からの難民収容施設、並びに、ベオグラード市南東部にあるコソヴォからの国内避難民が居住する集合住宅を訪問することができたことでした。国連ボランティアにご案内いただいたクルニャチャ難民支援センターでは写真のように難民の子供たちが学女生にすっかりなついて抱っこしてもらって喜んでいました。



しい思いをしている子供たちは、はるばる日本からやって来た学女生をお姉さんのように慕って、手をつないだり、しがみついたりして本当に嬉しそうな顔をしていました。最後の訪問国オーストリアの首都ウィーンでは例年通りウィーン国際センターを視察しましたが、珍しく国際会議(パングラデシュの干ばつに関するもの)が開催中の会場を見学することもでき、大きな刺激を得ることができました。世界遺産のシェーンブルン宮殿、美術史美術館、ウィーン・モーツァルト・オーケストラの演奏会にも足を運び、文化や芸術を堪能して研修は締めくくられました。

英語コミュニケーション演習

高橋 礼子 (英語コミュニケーション学科 専任講師)



今日、英語は世界の様々な場面で、英語を母語とする人々と母語としない人々の間のみならず、英語を母語としない人々の間でも使われています。この演習では、世界における英語使用の現状と英語が果たす役割、英語の多様性について理解を深め、国際的に通用する英語とは何かについて考えます。具体的には、World EnglishesとEnglish as a lingua francaに関する英語の文献を読み、理解を深めます。

World Englishesとは、世界の多様な英語を表す言葉であり、異なる文化・社会の中で使われる多様な英語の特徴と役割を認識し、受け入れていこうという考え方です。English as a lingua francaとは、母語の異なる人々の間で意思疎通のために使われる英語のことで、母語話者だけでなく他の非母語話者とも意思

疎通を図ることを目的とした新しい英語教育のアプローチの名称でもあります。この演習では、特に、「日本人の英語」、異なる母語をもつ人々の間で(比較的)通じやすい英語の特徴、そのようなコミュニケーションの場面で必要となってくる力(話し手と聞き手が互いに歩み寄り力等)に注目しています。

卒業生は、航空会社や銀行をはじめ、様々な分野で活躍しています。仕事で英語を使っている人も多くいます。英語圏の大学院に進学した人や海外で働いている人もいます。今後も、ゼミ生には、異なる言語・文化背景をもつ人々と意思疎通を図る能力や、異文化に対する寛容な態度を活かして、国内外で活躍して欲しいと願っています。



私は大学2、3年次に高橋先生の演習科目を取り、アイルランド英語、インド英語など英語であっても様々な英語の特徴があるということに魅了されました。もっと世界の英語、また世界で英語を使用する際に私たちが気を付けるべき日本英語の特徴について学び、英語を通して将来様々な国の人とコミュニケーションを図りたいと思い高橋先生のゼミに入りました。高橋先生のゼミでは、主に共通の母語がない人たち内での英語コミュニケーション(English as a lingua franca)について学び、そこでは学生一人一人の意見を尊重してください、たとえ間違ったことを発表してもサポートして下さる環境が整っています。

(英語コミュニケーション学科3年 森島 彩)



高橋先生のゼミでは、世界における英語の使用状況や「国際共通語」として英語を用いたコミュニケーションにおいて必要なことを学んでいます。大学2年時に留学したカナダで、英語の母語話者だけでなく、中国やメキシコなど他の国からの留学生と話す機会がたくさんありました。その留学を通して、私は英語の非母語話者とのコミュニケーションに興味を持ったため、高橋先生のゼミに入りました。「国際共通語」としての英語とは、文法や発音の正確さより、分かりやすさを重視した英語のことで、互いに理解し合うために必要なことを学んでいます。授業でのディスカッションなどを通して、理解を深めることができ、自分が興味を持っていることを探求する機会を多く持つことができていると思います。(英語コミュニケーション学科3年 中村 友香)



授業紹介

学芸員課程

清水 敏男（日本文化学科 教授）



日本には博物館法（1951年（昭和26年）12月1日公布、翌年施行）という法律があります。主要な公立博物館や私立博物館はこの博物館法に基づいて設置され運営されています。学芸員は博物館法に規定されている資格で学芸員課程を履修し学士号を取得することで与えられます。

学芸員課程では博物館法や博物館の哲学を学ぶ「博物館概論」をまず学び、ついで博物館の専門科目（「博物館展示論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館情報・メディア論」「博物館教育論」「博物館資料保存論」「生涯学習概論」「博物館実習」）を学びます。その一方、美術史、民俗学、文化史、生物学、地学の指定科目のなかから自分の関心のある領域の科目を選んで学びます（選択科目）。

3年時編入生や大学院生は短期間で履修できる制度になっていますし、海外留学をしても資格をとりやすいように設定されています。

博物館の専門科目は博物館・美術館の学芸員や研究員が担当し、理論だけではなく現場の経験を交えた講義が魅力です。

専門科目のうち「博物館実習」は学芸員課程の総仕上げの意味を持っている科目で、実際に博物館（学習院史料館、公立私立美術館など）で実習を行う学外実習と学内の展示室等を使った学内実習を行います。

学外実習は学習院史料館や公立私立博物館で行います。学内実習で行う展示会は、例えば2018年には1964年東京オリンピックの資料を収集した個人コレクションを紹介する展示会（「五輪

メモリーズ」）や現代アーティストと東京都立第五福竜丸展示館とのコラボレーション企画の展示会などを企画し運営しました。また2018年秋には各地から専門家を講師に迎えたセミナー（文学、美術、演劇の多領域で活躍した泉鏡花をテーマにしたアートマネジメント国際セミナー）の運営を担当しました。聴講者の事前受付作業に始まり、当日の案内、受付、進行管理、講師の対応などをこなしセミナーの成功に貢献しました。

学芸員資格を取得した卒業生には専門家として働いているものもありますが、重要なことは博物館の実際を知ることによって文化芸術への扉を開け長い人生に厚みを与える知見を得ることができることでしょう。

「博物館実習」で、実際に博物館で実習した後は学生の背筋が真っ直ぐに伸び、心なしか立ち居振る舞いが変わってきます。国に認められた資格を得るということはそういうところに現れるのかもしれません。



文化交流ギャラリーでの博物館実習授業風景



展示会「五輪メモリーズ」会場風景



展示会「五輪メモリーズ」会場風景
（展示協力の個人コレクター）



博物館実習展示「描く」会場風景

国際文化交流研究科(大学院)

清水 敏男 (研究科委員長)



四年制の学習院女子大学が生まれて間もなくより深い学びを実現するために大学院を設置することとなり、2004年に大学院がスタートしました。

本学の大学院は2つの目的をもっています。一つは実務家を養成することであり、もう一つは研究者を育成することです。この2つの目的を実現するために4つのプログラム(「アートマネジメント」「国際交流」「国際関係・地域研究」「日本学」)が用意されています。このうち「アートマネジメント」を紹介します。

20世紀末に冷戦が終了しグローバル化が加速されるようになった頃から特にアートの分野で国際化が進展し、営利・非営利の国際的な文化事業(国際的芸術祭、現代美術館、オークション、ギャラリーなど)が急増しました。同時にローカルな文化の再認識の気運も生まれ、地域の文化を活性化する事業が始まっています。いずれの局面においてもアートマネジメントの専門家が必要とされる時代になりました。

本学大学院のアートマネジメントプログラムはこうした動向を踏まえて設置され、アートマネジメントのファundamentalsに始まり、文化資源、文化経済、文化経営、非営利団体、アーカイブズ、パブリック・リレーションズなどアートマネジメントの専門家となるために必要な講義、研究、実務実習科目などを提供しています。担当教員はアートマネジメントの実務に携わっている専門家であり、最新の研究成果、実務経験が反映された授業を受けることができます。学部では深めることができなかった研究を継続したり、

在学中からアートマネジメントの実務を経験したり専門家として第一歩を踏み出す準備をすることができます。終了生は博物館学芸員、文化行政担当の公務員、文化施設の運営、文化芸術の企画、企業ギャラリーの運営など文化芸術の第一線で働いています。



学習院女子大学大学院アートマネジメント国際セミナーポスター



国際学研究所(GIIS)だより

国際学研究所長 日本文学科 教授 徳田 和夫



当研究所は、本学の学部・大学院の教育理念の達成を図るために設けられた付属教育研究機関です。2012年4月にオープンし、まもなく7年が経とうとしています。研究および活動分野は(1)国際文化交流、(2)国際問題、(3)比較文化、(4)アジア・太平洋研究、(5)外国における日本研究支援です。2018年度は、次の事業をおこないました。

「国際問題」や「アジア・太平洋研究」では、国際研究集会「東風は西風を圧倒したか―世界史の中の(1968)―」をおこないました(7/14、担当・今野純副所長)。50年前の中国における文化大革命について、歴史的かつ世界的な視野から討

議しました。成果は書籍にまとめられます。なおこの催しは、静岡大学人文社会科学部アジア研究センターの援助を得たものです。

「国際文化交流」や「比較文化」では、「百鬼夜行のタベ」を開催しました(7/27、担当・徳田)。

日本の古くから現代にいたる妖怪文化は世界が注目するところです。研究も深化しており、本学は学習院女子大学グローバルスタディーズ①

『東の妖怪・西のモンスター―想像力の文化比較―』を送り出しています(勉強出版、7/12)。そこで、今後の展開を当研究所顧問・国際日本文化研究センター所長の小松和彦氏(文化功労者)に講演をお願いし、マンガ家の近藤ようこさんに怪異の発想と表象のテクニクを語っていただきました。御礼多謝。併せて百鬼夜行絵巻も閲覧に供しました。



恒例の展示事業は、「ビジュアルな物語世界―お伽草子セレクション」と題しておこないました。和祭に合わせ、また本学にて説話文学会(九月



例会)が開催され(10/22、翌日の関連企画「絵本・絵巻研究集会」(名古屋大学「頭脳循環」プロジェクト主催、当研究所共催、担当・徳田)のために設置したものです。日本文化を発信し、学生・大学院生、留学生が本物の文化資源に接して勉強する機会として、大勢の父母保証人、一般の方々にも鑑賞いただきました。

当研究所はまた英文紀要を発行しています。その第5号を3月付けで発刊しました。初めての特集号で、

テーマは「東と西の妖怪・妖精・英雄伝承の比較研究」です。一般社団法人昭和会館の研究費による共同研究(代表・徳田)をまとめました。伊藤慎吾・式町眞紀子非常勤講師、木村恵子客員研究員(神戸女子大学准教授)が健筆をふるっておいでです。なお、当紀要は研究員、本学教員(専任、非常勤)、客員研究員等が執筆します。

そして、今年度も客員研究員をお迎えしました。本学非常勤講師四方八重戸氏(国際開発、共同研究・岡山圭一研究員)、埼玉県立大学非常勤講師門間卓也氏(東欧文化論、中島崇文研究員)、カ・フォスカリ大学(イタリア)カローリーナ・ネグリ准教授、(平安朝日記文学、伊藤守幸研究員)、韓国・誠信女子大学(本学協定校)教授ジョンベ・キム氏(マーケティング論、荏林幹太郎研究員)です。キム氏には2月初めに講演をいただきました。

以上は、補佐員上野冴さんの見事な事務運営によって達せられました。有り難うございます。



日本文化学科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
地域食文化「台湾茶」	沈 甫翰	奇古堂(台湾茶、茶器などの美術ギャラリー) 社長	5月23日	4限	比較生活文化論Ⅰ (地域食文化論)	磯部 泰子
障害×福祉×デンマーク	高橋 菜美子	フリーランス・ライター／本学卒業生	7月4日	1限	現代生活論Ⅲ (自己と他者)	時安 邦治
とある研究者の経歴書 ～ヒトに魅せられて25年～	木村 健太	国立研究開発法人産業技術総合研究所 主任研究員	7月4日	3限	日本文化演習Ⅰ・ⅢR	澤田 匡人
近世日本の領国貨幣の誕生と終焉 ～「銀子事之外悪しく」	Guillaume Carre	フランス国立社会科学高等研究院日本研究所 准教授	7月12日	1限	日本政治経済史	岩淵 令治
心理学の産業応用とWeb調査の実践	澤井 大樹	株式会社イデアラボ 代表取締役	10月10日	3限	日本文化演習Ⅱ・ⅣR	澤田 匡人
活用しますか?栄養成分表示	棚野 典子	台東区台東保健所非常勤職員 管理栄養士	10月31日	4限	現代生活論Ⅰ (現代食品情報)	宇都宮 由佳
レシビ検索データから見える現代の食	伊尾木 将之	クックパッド株式会社	11月13日	4限	日本文化演習Ⅱ・ⅣK	宇都宮 由佳
「雪国」を江戸で ～『北越雪譜』と牧之・馬琴・京伝・京山	森山 武	マードック大学(オーストラリア西オーストラリア州) 教授	11月28日	2限	比較文化論Ⅴ(社会)	岩淵 令治
郊外とロードサイドの社会学 ～トラックドライバー・コンビニ・国道16号線	後藤 美緒	日本大学文理学部助手	11月29日	2限	現代文化論Ⅱ(郊外論)	岩舘 豊
諸種日本酒の味わいとその製法	遊佐 勇人	人気酒造株式会社 代表取締役	12月7日	2限	比較文化論Ⅵ(嗜好)	品川 明
イタリアにおける日本文学研究	Carolina Negri	カ・フォスカリ大学 准教授	12月14日	2限	日本文学史Ⅲ	伊藤 守幸
現代日本の家族と介護 ― 当事者として 現場でみつめてきた介護保険法18年の軌跡	渡辺 ともに	訪問介護事業所ヒース・ケア 代表	1月18日	2限	日本人論Ⅱ	木村 直恵

国際コミュニケーション学科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
川越に見る都市計画政策と文化財保護 政策双方から見たその成果の変遷	荒牧 澄多	NPO法人全国町並み保存連盟 常任理事	5月16日	5限	国際コミュニケーション 演習Ⅰ・ⅢA	原田 怜
ドイツから見た「日本の働き方改革」	熊谷 徹	在独ジャーナリスト	6月5日	3限	ドイツ文化論Ⅰ	武井 彩佳
国際経済分野でのキャリア形成に向けた アプローチ	杉山 耕太	デトロイトトーマツコンサルティング 合同会社自動車セクターコンサル タント	7月3日	4限	国際コミュニケーション 基礎演習Ⅰ・ⅢT	宇野 公子
外資系コンサルの働き方	小池 都司	アクセンチュア ビジネスコンサル タント Corporate Citizenship	7月4日	3限	国際経済Ⅰ	宇野 公子
英語を用いた国際経済分野でのキャリア 形成に向けたアプローチ	志賀 裕文	PwCあらた有限責任監査法人財 務報告アドバイザリー部	7月11日	4限	外国語演習ⅠH	宇野 公子
現代の標準語・共通語をめぐる意識	塩田 雄大	NHK放送文化研究所研究員	10月4日	1限	社会言語学Ⅱ	福島 直恭
朝鮮学校と在日朝鮮人社会について	金 泰植	九州大学比較社会文化研究院 特別研究者、津田塾女子大学・ 日本女子大学他非常勤講師	11月13日	4限	国際コミュニケーション 基礎演習Ⅱ・ⅣH	武井 彩佳
相互の国際認識：欧州からみた日本、 日本からみた欧州	細田 尚志	カレル大学(チェコ) 講師	11月28日	4限	国際コミュニケーション演習 Ⅱ・ⅣR	石澤 靖治
なぜNPO法人か ～NPO法人 新宿のゆったり～のー	小原 聖子		12月4日	2限	ボランティア論Ⅱ	伊藤 由紀子
WTOがリードするグローバル経済における タックスコンサルタントの役割	羽二生 祥馬	KPMG税理士法人トランザクション アドバイザリーグループ	12月5日	4限	外国語演習ⅡH(世界貿易 機関(WTO)レポート)	宇野 公子
金融政策、国家公務員総合職の仕事と キャリア形成	井手 雅敏	国家公務員(財務省)	12月11日	3限	金融論	宇野 公子
国際経済分野でのキャリア形成に向けた アプローチ	塚本 英現	EY税理士法人	12月11日	4限	国際コミュニケーション 基礎演習Ⅱ・ⅣT	宇野 公子
外資系金融機関での働き方	土屋 雄輝	シティグループ証券株式会社 外国為替・新興国市場本部FX プライムブローカレッジ	12月12日	3限	国際経済Ⅱ	宇野 公子
タンザニアの文化・言語(スワヒリ語)・歌	鈴木 ラディア		12月13日	4限	アフリカ文化論	津山 直子
初期近代の哲学と化学：グローバル化、機 械論、デカルト革命	坂本 邦暢	明治大学文学部専任講師	1月17日	2限	ヨーロッパ文化論	根占 献一

日本文化学科・国際コミュニケーション学科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
日本人と花～花の役割とその効用	浅利 妙峰	有限会社花屋本店代表取締役	7月20日	3限	日本文化演習I・IIIN 国際コミュニケーション演習I・IIIU	品川 明

英語コミュニケーション学科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
非英語ネイティブが国際会議で発信することの意味について	内田 敢	日本放送協会、報道局プロデューサー、政経・国際番組部	1月15日	3限	英語コミュニケーション演習IID・IVD	高橋 礼子

国際文化交流研究科

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
米国統治時代の国際関係からみる沖縄の基地の歴史	堀川 輝之	沖縄県南城市役所文化課市史編集室 嘱託員、沖縄国際大学非常勤教員	12月6日	2限	国際関係特殊研究(国際法・国際機構)	櫻井 大三

共通科目

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
法曹という仕事と進路選択	北川 佳世子 卯木 叙子	早稲田大学大学院法務研究科教授 早稲田大学法務教育センター助手・弁護士	6月4日	3限	法学I	櫻井 大三
『塩学』入門～意外と知らない塩の話～	谷井 潤郎	公益財団法人塩事業センター	6月6日	4限	生活環境論III (健康と栄養)	宇都宮 由佳
ワークスアプリケーションズの仕事とキャリア形成	後藤 周	株式会社ワークスアプリケーションズ	6月12日	3限	基礎経済学	宇野 公子
日本におけるスポーツボランティアの現状と課題 ～2020東京大会ボランティア最新情報の共有を含む～	工藤 保子	大東文化大学スポーツ・健康科学部スポーツ科学科 准教授	10月24日	3限	生活環境論II (ウェルネス論)	荒井 啓子
現代の恋愛と社会	牛窪 恵	マーケティングライター、 有限会社インフィニティ 代表取締役	10月24日	5限	人間関係論III (対人関係の発達)	澤田 匡人
社会人が法律を学ぶ必要性について	小林 朝弘	株式会社アイビーコンサルティング 代表取締役	11月12日	3限	法学II	櫻井 大三

教職課程

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
学校の教師という仕事	及川 麻友子	神奈川県藤沢市立大庭中学校教諭	5月14日	5限	教職概論	大桃 敏行
教師の職能成長と学校経営	武市 憲幸	学習院高等科 科長	6月18日	5限	教職概論	大桃 敏行
学力・学力評価・学力テスト	荘島 宏二郎	独立行政法人大学入試センター 研究開発部 准教授	7月4日	5限	教育心理学	澤田 匡人

司書課程

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
国立国会図書館の電子図書館サービス	中村 若生	国立国会図書館電子情報部電子情報流通課情報発信係 係長	10月29日	1限	図書館基礎特論	江藤 正己

学芸員課程

テーマ	講師名	職名	日時	時限	授業名	担当教員
ドイツ留学によって形成された自分のアートについて	一条 美由紀	美術作家	5月19日	3限	博物館実習IIB	小勝 禮子
第五福竜丸とビキニ事件について	市田 真理	公益財団法人第五福竜丸平和協会事務局 主任・学芸員	9月22日	10時～12時	博物館実習IIB	小勝 禮子

新任専任教員紹介

日本文化学科 准教授

宇都宮 由佳

うつのみや ゆか



略歴

1973年大分県生まれ。2000年大妻女子大学大学院修士課程修了、博士課程単位取得後退学。2006年博士(学術)。同大学人間生活文化研究所・家政学部助手・助教、青山学院女子短期大学現代教養学科准教授を経て、2018年4月より現職。日本家政学会食文化研究部会常任委員、日本伝統食品研究会幹事。

主な研究業績：『文化を食べる 文化を飲む グローカル化する世界の食とビジネス』ドメス社2017、『流れと要点がわかる調理学実習 光生館2015』、『正月行事と食―年末年始の実態調査―食文化研究(14)2018』、『伊勢湾・三河湾を囲むたまりしうゆ・しろうゆ文化圏(愛知・岐阜・三重) FOOD CULTURE (28)2018』、『全国の献立大調査 学校給食を通じた和食文化の保護・継承』学校給食(67)2016、『タイ北部における山地民のモチ食文化』日本家政学会誌 61(3)2010、『ポルトガル伝統菓子 Fios de ovos のアジアへの伝播』食文化研究(6)2010など。

私の研究

専門分野は、食文化、生活文化です。食文化の変容実態を探り、その構造を明らかにすることを中心にすえ実証的な研究に取り組んでいます。主として東南アジアをフィールドに調査

しておりますが、2013年12月和食のユネスコ無形文化遺産登録を機に、「醤油の地域特性」や「郷土料理と学校給食」「年末年始の食」について共同研究をするようになりました。ここでは研究の一部を紹介させていただきます。

まず、「山地民のモチ食文化」について、モチ米の発祥地タイ北部に居住する主要6民族を調査しました。モチを食べる文化は、日本を含め中国・朝鮮半島・東南アジア一帯に広がっていますが、米粉から作ることが多く、蒸した米を搗くところは少ないのです。タイでは山地民だけで、民族によって杵や臼の形状は異なり、炒ったエゴマを加える・卵黄をまぶす、形も円形から動物を模したものまで、それぞれ特徴があります。これらを分析すると言語分類と相關関係が認められました。多種多様なモチですが、作る時期は共通しており、正月に神や祖先に供えるためモチを搗きます。さらに北タイの方言でモチを「カプツ」と言い、焼くと膨れる状態を表しています。先行研究では「ice cake」とだけ記述されていましたが、モチに込めた想いや「カプツ」の意味を知った時、同じ食文化圏である者だからこそのわかる研究のおもしろさを実感しました。

今年からは、米を主食するタイ、ベトナム、日本で、外来の食である乳食文化について実態調査を始めました。乳は、学校給食や欧米の食(ハンバーガーやピザ)とともに流入していますが、自国の料理に乳を加えることへの反応は様々です。欧州とは違った独自の乳食文化が形成されつつあるように思います。なぜそうなのか、今後どうなっていくのか研究を深めていく予定です。

「食」は、人類共通で必要不可欠なものです。食文化は、気候や風土、宗教によって異なり、時代でも変化してきます。本学におきましては、食を通して、アイデンティティの確立とともに他の文化に対する理解を深め、多様な視点で探求する楽しさを学生のみならず、一緒に味わっていきたくと考えております。

日本文化学科 准教授

澤田 匡人

さわだ まさと



略歴

1975年栃木県生まれ。筑波大学第二学群人間学類卒業。同大学大学院心理学研究科博士課程修了。博士(心理学)。臨床心理士、臨床発達心理士、専門社会調査士。聖徳大学講師、宇都宮大学准教授を経て、2018年4月より現職。著書に「シャーデンフロイデ―人の不幸を喜ぶ私たちの闇(単訳) 勁草書房、『子どもの妬み感情とその対処―感情心理学からのアプローチ(単著) 新曜社、『正しい恨みの晴らし方―科学で読み解くネガティブ感情』共著 ポプラ社など。日本感情心理学会理事、栃木県いじめ問題対策委員会委員、栃木県いじめ問題対策連絡協議会副会長。

私の研究

私の専門分野は感情心理学です。感情心理学とは、人間が抱く種々の感情の働きについて、調査や実験から解明しようとする心理学の領域で、私は「妬み」に関心があります。妬みとは、もともと自分にはないものを持った他者に向けられる敵意を帯びた感情です。妬みがなぜ生じて、どのような帰結をもたらすのかを明らかにするために調査を続けているのですが、妬みには「悪性」と「良性」の二面性があり、

いじめの悪化を招くような行為と関連する一方、学業成績の向上などのポジティブな結果にもつながることがわかってきました。

ところで、妬ましい人物が些細な災難に見舞われたと知って、思わず心を弾ませてしまった経験に心当たりはありませんか。そのような感情はドイツ語で「シャーデンフロイデ」と呼ばれ、近年、各国の心理学者から注目を浴びています。私もその一人で、2018年には翻訳書『シャーデンフロイデ(リチャード・ハリー・スミス著)』を上梓しました。私とシャーデンフロイデという感情との出会いは、1996年に「Envy and Schadenfreude」と題された論文を手にしたときにまで遡ります。必修だったドイツ語の単位を落として再履修の憂き目に遭っただけであり、当初は読み方すらわかりませんでした。しかし、調べてみれば「さあまろ」という気持ちの意味すると知り、心理学という学問の守備範囲の広さに感心させられました。そんな私が後年になって、件の論文を執筆したスミス博士が書き下ろした冊子を、よもや自らの手で翻訳することになったのは、当時は想像すらできませんでした。

こうして本学で教鞭を執ることになったのも、そうと決まるまでは思いもよらない話でした。現在は、知的好奇心に溢れた学生や聡明で温厚な同僚にも恵まれ、充実した日々を過ごせています。とても心地よい気風の大学なので、他大学に勤務する友人たちからしばしば羨ましがられるのですが、妬みを生業とする者がそうだったのは、運命のいたずらなのかもしれません。本学では教職課程も担当しておりますので、学習院女子大学らしい教員養成をはじめ、本学の発展のために力を尽くす所存です。これからも未永くよろしく願ひ申し上げます。

佐久間 みかよ

さくま みかよ



略歴

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。文学修士。ハーバード大学アメリカン・スタディーズ客員研究員(2014年度フルブライト研究員プログラム)。立教大学・国際基督教大学兼任講師、和洋女子大学教授を経て、2018年より現職。近著に、『環太平洋の想像力』(共著)(彩流社、2016年)、『A Passion for Getting It Right: Essays and Appreciations in Honor of Michael J. Colacurcio's 50 years of Teaching』(共著)(Peter Lang、2015年)、『Thoreau in the 21st Century: Perspectives from Japan』(共著)(金星堂、2017年)。アメリカ学会常務理事、初期アメリカ学会会長、日本メルヴィル学会評議員、日本マーク・トウェイン協会査読委員。

私の研究・教育

私の専門分野は、アメリカ文学・文化研究です。アメリカ文学・文化はヨーロッパ、イギリスに比べ歴史の浅いものですが、短い間に発展し、ハリウッドの映画産業、マクドナルドやスターバックスに代表されるどこでも享受可能な大衆文化を生み出し20世紀のグローバルリズムの中心となりました。その原動力は

キーワードとなる言葉を見いだし、それらを現実のものとする国家をつくり出した想像力にあると考えています。このプロセスの一つ、ある言葉が人々の心に届き、それによって社会が変わるダイナミズムを明らかにすべく文学作品を研究しています。17世紀入植当時に遡れば、イギリスから移住したキリスト教徒の人々が新天地アメリカで生き抜いたのは、聖書にある理想の地をつくることを目標としたことが一つの要因と言われています。聖書から「丘の上の町」という言葉が選ばれました。その後も、「自己信頼」「明白なる天命」という言葉がアメリカ国民の中に浸透していきます。これらの言葉を広めていったものに、新聞・雑誌・小説・詩があります。前記の言葉は、牧師、作家、ジャーナリストたちが使いはじめたものですが、これらがどのように生まれ、そして広まっていったかを科研費課題「アメリカン・キャラクターの伝播と出版界―孤立主義的レトリックの継承」として研究しています。

私がアメリカ文学を研究しようと思ったのは、大学で文学を学んだのち、家族の転勤でサウジアラビアの東部地域で暮らすという経験をしたことにあります。当時アメリカ資本がサウジアラビア東部に進出し、砂漠の中の小アメリカで私は暮らしました。そこで目の当たりにしたバイタリテイあるアメリカ人はアメリカ小説の原型と言ってもよいものでした。文学研究は書物の研究ですが、書物にとどまるものではありません。アメリカの文学・文化を学ぶことで広い視野と異文化を理解し受容する分析力を身につけるため、教室が新たな経験の場となる授業を心がけています。

Learning Support Room (ラーニングサポートルーム)活動報告

9月21日(金)ラーニングサポートルーム(以下LSR)において「秋学期授業履修相談会」を開催しました。当日は3・4年生の学生6名が、授業内容や興味のある分野に関連するおすすめの授業について、1・2年生の相談に応じてくれました。相談会終了後には、1・2年生から「様々な講義や先生を紹介して下さったり、自分の興味がある分野を学ぶにはどの講義が良いのか、どのような勉強をした方が良いのか丁寧に教えてくださり、有り難かった」、3・4年生から「自分が何を大学で学んだか自信を持って言えるよう、自分の興味のある分野を見つけ、それに沿った授業を組むよう伝えた」といった声を聞くことができました。

LSRでは、学生たちが十分な学びを得られるよう、2名のキャリアカウンセラーやアカデミックアドバイザーが常駐し、個別相談を行っています。学修アドバイスを始め、学生生活や就職活動に関しての相談を受けており、春学期には416名の学生が利用しました。個別相談の他、学生のニーズに応じた正課外の講座も開催しています。今後も、学生たちの「つまずき」「悩み」等の早期発見につながるよう、サポート及びアドバイスが受けられる場としての役割を果たしていきたいと思います。



貧困削減と国際機関の役割： MDGsからSDGsへ

国際コミュニケーション学科教授 宇野公子

1978年に留学をして、その後31年間海外生活をしていました。2009年に日本へ戻り、最初は東京外国語大学で、2017年からは縁あって学習院女子大学で国際経済学を教えています。

ジュネーブを皮切りに、ヨーロッパ、北米、アフリカ、中東、東南アジア、オセアニアにまたがる国際機関（国連、OECD、世界銀行）の本部及び地域事務所での27年間の勤務を通じて得た知識と経験を、できる限り多くの学生諸君と分かち合いたいと考えて、研究教育に励んでいるところです。

ところで国際機関における職員の国籍比率は、分担金額と比例的であることが原則ですが、日本人職員の存在は希薄だと言えます。逆に言えば、日本人職員が増加できる余地は十分にあるので、国際経済協分野に興味を持ち、国際機関を将来の進路に選ぶ学生が増えてくれることに期待しています。そのため授業やゼミを通じて、国際社会や国際機関の仕事への理解を深めてもらうように努力しています。

国際機関の国際経済協力における役割の典型的な例として、国際機関は2000年からMDGs（ミレニアム開発目標）を掲げて貧困撲滅を目指し、2015年からはSDGs（持続可能な開発目標）を採択することで、MDGsの成果の更なる継

続・発展を図っています。

SDGsはMDGsより広い分野での開発を目指していますが、今日は2000年に始まったMDGsが、「どの程度その目標である貧困撲滅を遂行できたか」についてアジア・太平洋地域の開発途上国のデータを用いてMDGs前（1990年から2000年）とMDGs中（2001年から2015年）を比較し、貧困撲滅にはどのような要因との関係が深かったかを考察します。

貧困撲滅には、GDP、ODA、FDI、DEBT、教育人口が関わっていると予想されるところから、分析の基本的な枠組みは図1のようにまとめられます。分析のためのデータとしては、世界銀行のWDI（世界開発指標、2018年時点のオンライン版）を用います。

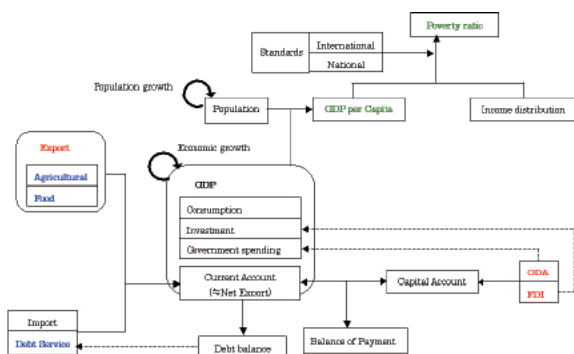


図1. 貧困率と関連する経済指標の因果関係



具体的な分析対象として、アルメニア、アゼルバイジャン、バングラデシュ、ブータン、ブルネイ、カンボジア、フィジー、グルジア、インド、インドネシア、イラン、カザフスタン、キリバス、北朝鮮、キルギス、ラオス、マレーシア、モルジブ、マーシャル諸島、ミクロネシア連邦、モンゴル、ミャンマー、ネパール、パキスタン、パプアニューギニア、フィリピン、西サモア、ソロモン諸島、スリランカ、タジキスタン、タイ、東ティモール、トンガ、トルクメニスタン、ウズベキスタン、バヌアツ、ベトナムのアジア、旧ソ連中央アジア、太平洋の開発途上国37か国を考えます。

貧困率のように、0と1の間の値しか取らない変数を説明するためには、ロジットモデルまたはプロビットモデルを用いるのが一般的です。これらは誤差の分布に関する仮定が異なるが、ここでは前者を採用します。

貧困の定義には、「絶対的貧困」と「相対的貧困」があるが、ここでは後者の定義を用います。MDGsに言う貧困撲滅は、「貧困ライン」以下で生活する（絶対的）貧困人口の減少を指すが、基準となる貧困ラインとしては、各国が独自に設定した所得水準（概ね国民平均所得の半分以下が目安）を用いています。

(1)です。POV_{it}はi国t年の絶対的貧困率、y_{it}はi国t年の貧困に関する

$$POV_{it} = \frac{1}{1 + \exp(y_{it})}, \quad y_{it} = \alpha_0 + \sum_k \alpha_k x_{kit}$$

線形式、 $\sum_k$ はそのk番目の説明変数です。式(1)の値が-8ならば貧困率は1、+8ならば貧困率は0になるので、yは豊かさを表現する式であることが解ります。従って、正で有意なパラメータ α を持つ変数xは貧困を減少させ、逆に負で有意なパラメータ α を持つ変数xは貧困を増加させる。(1)式の貧困率と、それを1から引いたものの比を取り、さらに両辺の対数を取る

$$\log\left(\frac{1-POV_{it}}{POV_{it}}\right) = \alpha_0 + \sum_k \alpha_k x_{kit} \quad (2)$$

と、(2)となつて、貧困率を説明する線形式が得られます。

具体的には、(3)の説明変数を含む式を考えます。

ここにPCYは一人当たり国内総生産(GDP)、EXPはGDPに占める輸出の比率、DEBTはGDPに占める対外債務の比率、FDIは一人当たりの海外直接投資、ODAは一人当たりの開発援助(いずれも受取額)、AEXPは輸出に占める一次産品の比率、LITは若年者識字率(15歳以上24歳)を意味します。MDGsの貧困撲滅に対する効果を見るため

$$\log\left(\frac{1-POV_{it}}{POV_{it}}\right) = \alpha_0 + \alpha_1 PCY_{it} + \alpha_2 EXP_{it} + \alpha_3 DEBT_{it} + \alpha_4 FDI_{it} + \alpha_5 ODA_{it} + \alpha_6 AEXP_{it} + \alpha_7 LIT_{it} \quad (3)$$

に、1990年から2000年のデータ(MDGs前)と2001年から2005年(MDGs中)について、計算を行い、表1に(3)式をパネル回帰した結果を示しています。パラメータ値のカッコ内はt値です。

表1. 貧困率に関する固定効果モデルの計算結果

	Before MDGs	During MDGs
定数	-2.0071 (-5.16)	-0.3283 (-0.92)
PCY	8.08×10^{-6} (1.66)	0.00014 (8.03)
EXP	0.00191 (0.94)	-0.00187 (-1.44)
DEBT	0.00103 (0.29)	0.00261 (1.61)
FDI	1.94×10^{-5} (0.33)	1.02×10^{-5} (0.54)
ODA	0.00043 (0.32)	0.00119 (2.73)
AEXP	0.00116 (0.11)	-0.00010 (-0.01)
LIT	0.3178 (9.61)	0.0118 (3.11)
自由度	63	451
モデルF値	16.8	17.14
級間 R-sq.	0.6426	0.2101
級内 R-sq.	0.0483	0.0806
R-square	0.4054	0.0773

かわつていたかの分析を行った結果は以下です。

① MDGs前とMDGs中の両期間に、最も「貧困撲滅」に効果があったのは、「若年者識字率(15歳以上24歳)」です。特にMDGs前の方がMDGs中より、「若年者識字率」の

GDPに占める輸出の比率は、両期間において、貧困削減効果は認められませんでした。

④ 一人当たり国内総生産と一人当たりの開発援助額は、MDGs中に、明らかな貧困削減効果が見られました。

しかし、MDGs前の効果は明らかではありません。

識字率は双方の期間とも1%有意で貧困削減に効果が認められるが、前半期間では、一人当たり所得でさえ10%有意に過ぎず、他に有意な変数はないと思われます。このことは特に前半期間においては所得の再分配がうまく機能していなかったことを示唆しています。一方、後半期間については一人当たり所得とODAが1%有意になつていて、前半と比べてODAが有効に機能するための政治システムの改善が進んだと見ることが出来ます。一方でFDIの受入れや、それに伴う輸出産業の強化は、途上国の貧困改善には余り役立たないという結果が読み取れ、モデルの自由度が大きいこともあり、決定係数は低いがF値は1%有意であり、モデル自体は十分意味を持つと考えられます。

MDGsの貧困撲滅に対する効果を見るために、1990年から2000年のデータ(MDGs前)と2001年から2005年のデータ(MDGs中)を37か国のデータを用いてMDGs前(1990年から2000年)とMDGs中(2001年から2005年)を比較し、また貧困撲滅にはどのような要因が

「貧困からの脱出」へ効果があるという結果でした。

② GDPに占める対外債務の比率は、両期間において、貧困削減効果があると明らかですが、さらなる検証が必要です。国際機関が行う債務削減の効果については今後分析を期待されることです。

③ 一人当たりの海外直接投資、輸出に占める一次産品の比率、



現代舞台芸術の移動性について —現代日本演劇への短い序説

モビリティ

日本文化学科
教授 内野 儀



わたしの専門分野である現代日本の舞台芸術について、今回は、主として一九六〇年代以降、現在に至るまでに何が起きているのかということを中心にお話しさせていただきます。

戦後期は当初、新劇と呼ばれる西洋の近代劇に影響を受けた登場人物間の対話を重視する演劇が全盛でしたが、一九六〇年代に入ると、新しい世代が登場し、アングラ演劇運動が展開します。寺山修司の「天井桟敷」、鈴木忠志の「早稲田小劇場」、唐十郎の「状況劇場」がその代表格とされています。これらのアーティストと劇団は、それまで演劇だと考えられてきたイメージや理論的前提のすべてに疑問を投げかけ、演劇の有り様を根源から問い直しました。小空間やテント内で公演を行ったリ、伝統演劇の要素も取り入れた

俳優の身体性を重視するといったその上演のスタイルは、国際的にも高く評価されました。

アングラ演劇が作り出した新しい流れは、八〇年代まで継続し、次世代の劇作家や演出家も次々登場してきます。その間、アングラという呼称は次第に使われなくなり、小劇場演劇という自立したジャンルとして確固とした地位を築きました。野田秀樹の「夢の遊眠社」や鴻上尚史の「第三舞台」などが、その新しい感性で若い観客から注目され、小劇場ブームが到来したのです。

九〇年代に入ると「青年団」を率いる平田オリザが「現代口語演劇」を提唱し、新しい演劇理論によって新たな小劇場演劇の流れを作りだします。日本語がどう実際に話されているかに注目した平田の演劇は、写真というより厳密な写生とでもいえる描出力で注目を集め、そのあとを、多くの劇作家・演出家が追いかける流れを作ることになりました。なかでも、「チェルフィッチュ」という集団を主宰する劇作家・演出家の岡田利規は、その「三月の5日間」(〇四)という初期代表作によって、日本のみならず、海外でも知られるようになりました。

「超口語演劇」とも呼ばれてい

た岡田の演劇では、複雑な語りの技術を使っ
て若者たちの日常が
緻密に表現されます
が、俳優たちがだら
らと「だらしない身体」
で演技をしているよう
にも見えるので、「あれ
は演劇ではない」との
批判もあり、論争とも
なりました。しかし、
〇七年にヨーロッパで
大成功を収めて以来、
海外での演出作品も
増え、国境を越えて移
動する活動が中心に
なっています。今回

の講演では、岡田がドイツ・ミュン
ヘンのカンマーシュピール劇場
のために台本を書き、演出もした
『NO THEATER』(一七)も紹介し
ました。

このように小劇場演劇は、今や、
「小さな劇場で行われる演劇」
という狭い意味ではなく、日本の
現代演劇を代表する一つのジャン
ルとなりました。そのことは、一八
年の秋、フランス・パリで行われた
「ジャポニスム2018」に、「チェル
フィッチュ」をはじめ、数多くの小
劇場演劇のアーティストや劇団が
招聘されたことから明らかに
思います。日本の小劇場演劇は、



チェルフィッチュ『三月の5日間 リクリエーション』／岡田利規作・演出 撮影：前澤秀登



グローバル化時代にふさわしい
移動性を身につけたのです。



本学で開催された学会・研究会

団体名	責任者	会名称・内容	日時	参加人数
古事記学会	神田 典城	研究発表会	4月21日、9月15日、12月22日	各40名
上代文学会	神田 典城	常任理事会	4月21日	25名
関東日本語談話会	佐藤 琢三	研究発表会	定例6回	各30名
伝承文学研究会	徳田 和夫	研究会	4月14日、5月26日	各20名
			6月23日、7月28日	
			10月20日、11月17日	
説話文学会	徳田 和夫	研究会	9月22日・23日	100名
祭祀研究会	乾 尚彦	研究会	7月15日、11月4日	各13名
初期アメリカ学会	佐久間 みかよ	研究会	6月26日、10月27日	各15名
			2019年1月26日	
日本ユダヤ学会	武井 彩佳	学会・研究会	5月26日、7月28日	約40名
			9月29日、10月27日	
ルネサンス研究会	根占 献一	研究会	7月7日	約50名
藝能学会	乾 尚彦	セミナー 研究大会	6月23日	各100名
			12月8日	

2018年度 客員研究員一覧

	氏名	所属	研究テーマ	受入部署	共同研究者	受入開始	受入終了
1	門馬 卓也	埼玉県立大学非常勤講師	ユーゴスラヴィアにおける政治とナショナリズム	国際学研究所	中島 崇文	4月1日	3月31日
2	四方 八重戸	本学非常勤講師 国際連合大学勤務	持続可能な開発目標(SDGs)を含む、ポスト2015年開発アジェンダに関して：持続可能な社会創りへのインパクトとステークホルダーの動向を中心に	国際学研究所	畠山 圭一	4月1日	3月31日
3	カロリーナ・ネグリ	カ・フォスカリ大学(イタリア)准教授	平安期日記文学の研究	国際学研究所	伊藤 守幸	11月23日	12月27日
4	ジョンベ・キム	誠信女子大学(韓国)教授	New Product Development Management Marketing Management Innovation Management Advertising Management Marketing Research	国際学研究所	莊林 幹太郎	2019年1月21日	2019年3月21日



協定留学生（ミュンヘン大学）

Paulus Isabel

パウルス イサベル

もう三か月ぐらい日本で留学生として学習院女子大学にいます。日本人の学生と留学生の友達を作って、一緒に色々な面白い経験をしました。特に印象深い二つの出来事について紹介したいと思います。

●高尾山の遠足

三人の留学生と一人の日本人のバディで高尾山に行きました。道の半分はケーブルカーで行けますが、皆は歩く気満々だったので、ケーブルカーには乗らず、歩きました。思っていたよりも険しい道だったので、途中で何度か休憩しました。神社でおみくじを買ったり、お祈りしたり、初めて神主さんを見たり、写真を撮るたくさん撮ったりしました。三時間の道のりは長かったですが、きれいな景色を見ながら、歩くのは気持ち良かったです。山頂は人が多かったですが、天気も良く、日本らしい風景を見ることができました。お昼は初めてとろろそばを食べました。とても美味しかったです。帰り道の途中で天狗の形のたい焼きも食べました。たくさん歩いたので、疲れましたが、とてもいい一日になりました。



右がイサベルさん

●東京染めものがたり博物館

国際交流推進センターのイベントで東京染めものがたり博物館へ留学生の皆で行きました。日本の伝統的な染物についてあまり知りませんでしたが、この日を通してたくさん学ぶことができました。始めにビデオで歴史について知り、その後スタッフの人に教えてもらいながら、実際に染物体験をしました。やってみると、難しかったですが、できあがりを見たとき、とてもきれいで嬉しかったです。ドイツに帰ったら、家族や友達に見せたいです。

日本に来てから色々な場所に行きましたが、今度は旅行に行つて、たくさん思い出を作りたいと思います。残りの時間も楽しみです。



協定留学生（ラオス国立大学）

Boutthavong

Olaphai ブッタヴォン オーラバイ

私は学習院女子大学に留学しています。もうすぐ一年になります。身につけたものは今までの人生で最も大切なものであり、これからの人生に大きな影響を与えられるものだと思います。

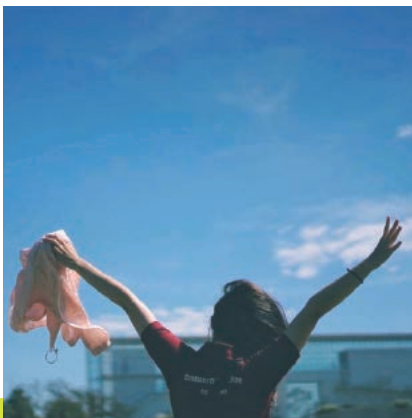
一人で生活するのは初めてで、なんでも自分でやらなければならない状況の中で、生活することの大変さを学ぶことができました。時々難しいことがあっても私にとつて、いいチャレンジだと思います。また、はじめのうちは知らない人ばかりで不安でいっぱいでしたが、毎日新しい人と出会えたことでたくさんの友達を作ることができました。日本人だけでなく様々な国から来た人々にも出会いました。一緒に遊んだり、勉強したり、ご飯を食べたり、本当に嬉しかったです。その経験はラオスに帰っても忘れたいです。

私は日本に留学している間に日本語を勉強するだけではなくいろいろな日本の文化を勉強しました。例えば、華道の授業です。華道の授業の中で日本のいけばなの歴史や花の意味を勉強しました。毎週、綺麗な花をもらって、自分でいけばなをして、



左がオーラバイさん

面白かったです。ラオスは華道の授業がないので、とってもいい経験で、新しい知識です。私にとって、学習院女子大学に留学している間は本当に幸せで珍しい期間です。日本語の先生たちのおかげで、私の日本語のレベルはもっと良くなりました。それに、困ったことがあればいつも助けてくれた国際交流推進センターの方たちに本当に申し訳ないと思います。ありがとうございます。これからも語学の勉強と、ラオスの現地の生活など多く知るために日々精進していきたいと思っています。今回ご支援くださった皆様、本当にありがとうございます。





日本文化学科 4年

鄭 栽熹

ジョン ジェヒ

日本での生活に胸をときめかせて学習院女子大学に入学した日がまるで昨日のことのように思い出されます。あつという間に年月が過ぎ、3月の卒業の日を控えています。今まで私を激励し、力にもなってくださった先生方や友達、そして何より日本へ留学させてくれた両親にまず、感謝の言葉を伝えたいです。すべてのものがあまりにも速いスピードで通り過ぎたので、寂しい気持ちがあります。大きくなって心の中を埋め尽くしています。

卒業を控えて、多くのことが思い出されます。試験の前にお互いに励まし合ったこと、JAPAN TENTや学校の国際交流会を通じて多くの国の人たちと友達になったこと、着物を着て浅草にお出かけたこと、ベーグル専門店でのアルバイト、友達とのヨーロッパ旅行などが次々とまぶたに浮かびます。これらすべてが今日の私を作ってくれたと思います。これほど大切に美しい思い出を作ってくれた大学とも後2ヶ月でお別れです。

大学で学んだのは単なる日本文化の知識だけではありません。外から母国である



韓国のこともより改めて見直すことができました。また、私は大きな世の中の動きにも関心を持つようになりました。学習院女子大学が、そして、友達が私に教えてくれたお互いに対する信頼と愛、友情そして尊敬を私は永遠に忘れません。

この4年の間に学んできた実りの喜びを考えるにつけ、別れの時間が近づいているのは悲しいですけれども、卒業は新しい道を探るための新たな始まりでもあります。すから、笑顔で卒業したいと思います。

先生方の教えを胸に、夢に向かって未来という高い空に羽ばたいて行きたいと思います。

最後にもう一度、先生方、どうもありがとうございました。



国際コミュニケーション学科 4年

楊 昕雨

ヨウ キンウ

学習院女子大学での大学生活を振り返ると、心の支えになっているような感動がいっぱいで幸せな4年間でした。ありがたいことに、どの場面でもいい人に恵まれ、充実した学生生活を送ることができました。出会った人全てに感謝しています。

4年間の学生生活の中で一番印象深かったのは、2017年夏休み中に参加したカナダ語学研修です。留学先の大学で出会った先生やホストファミリーの方たち、一緒に研修に参加した学生たちとは今も連絡を取り合っています。大学にいる4年間は日本だけでなく、異文化間の相互理解を深める機会を沢山頂き、多様な国の人と異文化交流をすることができました。

私が学習院女子大学で一番幸せを感じたのは、現在所属しているゼミのことで、中日食文化の比較と相違から健康な生活を送るための新たな提案を研究することができ、自分の興味のある分野を研究することができました。さらに、教授やアシスタントの方、先輩たちはいつも優しく声を掛けてくれて、家族のような存在で温もりを感じました。国際交流推進



センターの皆様と一緒にいるときも、帰る場所がある、頼る人がいるという安心感で、学校にいただけで落ち着く感じがしました。私はこれからも頑張れると強い気持ちを持つことができました。

ここまで書くとき、名残惜しい気持ちが強くなってきました。この大学に通えたこと、先生や友達に恵まれたことは、一生の宝です。卒業して、厳しい社会へと旅立っていく私たちですが、大学での教えを糧に、精一杯羽ばたいていきたいと思っています。





国際コミュニケーション学科

3年

中村 恭佳

私はカナダ、アルバータ州のレスブリッジ大学に協定留学していました。街中に峡谷が広がり、冬にはマイナス30度にもなる大自然の中にある地域です。初めてのカナダでの生活や英語での授業に戸惑うこともありましたが、カナダ人以外にも世界中からの留学生と出会い、勉強にも遊びにも毎日全力で向き合いました。

レスブリッジ大学には様々な学部と授業が設置されていて、留学生は自由に履修することが出来ます。日本とは比較にならない量の課題やテストは大変でしたが、恵まれた環境の中で経営、政治、演劇、宗教など様々な学問分野に挑戦できたことは、帰国後のゼミ選択にも役立ちました。全て現地生と同じ授業を履修し、無事に単位を修得できたことは自信にも繋がりました。

カナダの学生はとても活発に授業に参加し、大きな図書館では常に沢山の人が勉強していました。テストのシーズンには学校がストレス解消グッズを配る、図書館に犬を連れてきてセラピーを開くなどのほか、学生同士でもお互いに励まし合い、一丸となって頑張る風潮がとても素敵でした。課



左から4番目が中村さん

外活動にも盛んに取り組んでいたことに衝撃を受け、そんな彼らに感化されたおかげで私の留学生活もより実りあるものになりました。大学内には沢山のクラブやコミュニティが存在し、放課後や週末にはバレーやフットサルの試合をしたり、アイスホッケーやバスケの試合観戦、ハイキング、スキー、凍った湖での釣りに出かけたり、様々なパーティやイベントに積極的に参加して、築いた人とのつながりは今でも続く宝物です。何もかもが刺激的な充実した日々で、帰国してしばらく経った今でも毎日のように戻りたいと思っています。このような機会を与え、支えてくださった国際交流推進センターの方々、家族、友達に心から感謝しています。



国際コミュニケーション学科

4年

内藤 由梨香

私はポーランドのワルシャワ大学に協定留学していました。ポーランドはドイツやチェコ、ウクライナなどの7カ国と国境を接している、中欧の国です。30年ほど前まで共産主義国だったためか、ポーランド人は西欧に対して劣等感を感じているようで、留学中に何度も「どうしてポーランドを選んだのか」と聞かれました。ですが、この質問に一言では答えられないほど、魅力的な国でした。

国際政治を専攻している私は、歴史や外交政策に関する授業を履修していました。ポーランドは国家が占領されたり消滅したりと、暗い過去も多いですが、そこから学べることは沢山あります。また、せっかく現地にいるのだから、もっと深く学びたいと思い、多くの博物館や資料館に行きました。目を背けたくなるような展示もありましたが、当時の人々の視点で考えることができる貴重な時間でした。

授業以外では、留学生向けのイベントに積極的に参加するようにしました。世界中から集まる留学生の中には、私の知らない国から来ている人もいます。留学生同士



前列左が内藤さん

の交流から、色々なことに興味を持つことが出来ました。さらに、親日国ポーランドでは、大学の日本学科などで日本語を学んでいる人が沢山います。私はポーランド語が話せないので助けてもらったり、「日本祭り」等のイベントで私が浴衣の着付けを手伝ったりして、仲良くなりました。

そして大型連休や長期休暇の時は国内外へ旅行に行きました。この1年間に私が訪れた場所は、ポーランドも含めて21カ国35都市。今までは「欧州」とまとめた地域複雑で多様性に富んだ文化を五感で楽しめました。

このような充実した留学生活になったのも多くの支えがあったからです。お世話になった皆さんには本当に感謝しています。



2018 国際交流推進センター行事報告

本学で学ぶ協定留学生や私費留学生が自分の母国や所属大学を紹介する会を、定期的に開催しています。

4月

- 12日 Welcome Party(留学生歓迎会)
- 24日 留学生の話を聞こう!(ドイツ・台湾)



- 2日 (霞会館助成)歌舞伎鑑賞教室
- 12日 留学生の話を聞こう!(中国・ポーランド)
- 26日 留学生の話を聞こう!(台湾・ドイツ)
- 30日 TOEFL ITPテスト学内受験

6月



国立劇場で、歌舞伎の見かたについての説明を受け、「連獅子」を鑑賞しました。



8月

- 25日 留学説明会
- 27日 Welcome Party(留学生歓迎会)



9月

- 16日 留学生の話を聞こう!(ドイツ・カンボジア)
- 17日 (霞会館助成)留学生染め物体験教室



新宿区にある「染めものがたり博物館」で、江戸小紋の染め物体験をしました。各自が好きな動物や花などの模様を入れ、個性あふれる作品が出来上がりました。



1月

- 17日 Farewell Party(留学生送別会)



3月

- 8日 留学説明会
- 9日、11日 留学経験者との座談会
- 17日 TOEFL説明会
- 25日 留学生の話を聞こう!(韓国・チェコ)

5月

協定校への留学を目指す学生向けに、春学期と秋学期にそれぞれ留学説明会と、留学から帰国した学生に直接質問ができる座談会を開催しています。



7月

- 5日 Farewell Party~七夕のタペ~(留学生送別会)
- 10日 留学生の話を聞こう!(エストニア・イギリス)



春学期で卒業または留学期間を終えて帰国する留学生の送別会です。七夕飾りや浴衣など、日本の夏祭りをテーマに実施しました。

- 2日 留学経験者との座談会
- 17日 (霞会館助成)留学生バス旅行
- 23日 留学生の話を聞こう!(台湾・ラオス)
- 25日 TOEFL ITPテスト学内受験

10月

山梨を訪れ、影絵の森美術館と昇仙峡の散策やぶどう狩り体験など、日本の自然や文化を楽しむ一日となりました。また、留学生サポーターの日本人学生も数名参加し、親交が深まりました。



12月

- 7日 留学生の話を聞こう!(エストニア・台湾)



2月

- 19日 (女子中・高等科主催)留学生能楽鑑賞会

留学制度について

本学在学中に留学するには、以下の4つの方法があります。

- ① 協定留学: 学内選考を経て、協定大学に留学すること。
- ② 私費留学: 学士の学位授与権のある大学または当該大学に直結する附属機関に、事前に本学の許可を受けた上で留学すること。
(留学先は自分自身で選択。プログラムの内容によっては留学と認められない場合もあります。)
- ③ ダブルディグリー留学: 海外の大学に留学し、それぞれの大学で修得した単位の一部を両大学が相互に単位認定することで、両大学の学位を取得すること。(本学はカナダのレスブリッジ大学との間でダブルディグリー協定を締結しています。)
- ④ その他の留学: 本学を休学して、海外の語学学校・専門学校などで留学すること。(夏休みなどの長期休暇を利用して留学する場合に休学する必要はありません。)

区分	留学期間	単位認定	学費	備考
協定留学	原則2学期(1年間)	可	本学学費全額納入・協定校学費免除	1学期(半年間)の留学も可能・4年間で卒業可能
私費留学	原則2学期(1年間)	可	在籍料相当額納入・留学先学費は自費	1学期(半年間)の留学も可能・4年間で卒業可能
ダブルディグリー留学	①2年次秋学期から留学する場合: 原則5学期(2年6ヵ月間) ②3年次秋学期から留学する場合: 原則4学期(2年間)	可	在籍料相当額納入・留学先学費は自費	最短5年間で卒業
その他の留学	1学期～学期に定める休学可能期間内	不可	在籍料相当額納入・留学先学費は自費	休学扱い・4年間で卒業不可

協定留学について

1. 協定留学とは

本学では、現在15の国・地域の23校の大学と交換留学協定を締結しています。この23校の協定大学へ、学内の選考を経た上、本学より推薦を受けて派遣されることを協定留学といいます。

2. 学生交換・派遣プログラムのある協定大学一覧(平成30年12月現在)

国名	大学名/所在地	語学力の目安 ※①、②、③
アメリカ	ミズウリ南部州立大学 ジョブリン/ミズウリ州	TOEFL iBT 60点程度 または IELTS 6.0(Overall)以上 各5.5(L, R, W & S)程度
	カリフォルニア大学デービス校 ※④ デービス/カリフォルニア州	TOEFL iBT 80点以上 または TOEFL PBT(ITP) 550点以上 または IELTS 7.0(Overall)以上 各6.5(L, R, W & S)以上
	ウェストアラバマ大学 リビングストン/アラバマ州	TOEFL iBT 60点程度 または IELTS 6.0(Overall)以上 各5.5(L, R, W & S)程度
	ボーリンググリーン州立大学 ※⑤ ボーリンググリーン/オハイオ州	TOEFL iBT 71点以上 または TOEFL ITP 500点以上 または IELTS 6.0(Overall)以上 各5.5(L, R, W & S)以上
カナダ	ノーザンブリティッシュコロンビア大学 プリンスジョージ /ブリティッシュコロンビア州	TOEFL iBT 70点程度 または IELTS 6.5(Overall)以上 各6.0(L, R, W & S)程度
	レスブリッジ大学 レスブリッジ/アルバータ州	TOEFL iBT 70点程度 または IELTS 6.5(Overall)以上 各6.0(L, R, W & S)程度
オーストラリア	メルボルン大学 メルボルン/ヴィクトリア州	TOEFL iBT 79点以上 (セクション毎のスコア: R13 L13 S18 W21以上) または IELTS 6.5(Overall)以上 各6.0(L, R, W & S)以上
イギリス	リーズ大学 リーズ/ウェスト・ヨークシャー州	IELTS 6.0(Overall)以上 各5.5(L, R, W & S)以上
エストニア	タリン大学 タリン	TOEFL iBT 50点以上 または IELTS 5.5(Overall)以上 各5.0(L, R, W & S)以上
ポーランド	ワルシャワ大学 ワルシャワ	TOEFL iBT 50点程度 または IELTS 5.5(Overall)程度 各5.0(L, R, W & S)程度
チェコ	パラツキー大学 オロモウツ	TOEFL iBT 50点程度 または IELTS 5.5(Overall)程度 各5.0(L, R, W & S)程度
ルーマニア	ブカレスト大学 ブカレスト	TOEFL iBT 50点程度 または IELTS 5.5(Overall)程度 各5.0(L, R, W & S)程度
ドイツ	ハンブルク大学 ハンブルク/ハンブルク州	ゲーテ・インスティテュート・ ドイツ語検定A2レベル程度 またはドイツ語検定試験3級程度
	ミュンヘン大学 ミュンヘン/バイエルン州	ゲーテ・インスティテュート・ ドイツ語検定B1レベル程度 またはドイツ語検定試験2級程度
フランス	西部カトリック大学 アンジェ	ヨーロッパ言語共通参照枠B2レベル
中国	清華大学 北京	中国語検定試験(HSK)4級以上 または 中国語検定試験3級以上
台湾	高雄大学 高雄	中国語検定試験(HSK)3級以上 または 中国語検定試験3級以上
	静宜大学 台中	中国語検定試験(HSK)3級以上 または 中国語検定試験3級以上
	実践大学 台北	TOEFL iBT 50点程度 または IELTS 5.5(Overall)程度 各5.0(L, R, W & S)程度
韓国	誠信女子大学 ソウル	一般韓国語能力試験(S-TOPIK) 中級程度 または ハングル能力検定試験4級程度
	梨花女子大学 ソウル	一般韓国語能力試験(S-TOPIK) 中級程度 または ハングル能力検定試験3級程度
ラオス	ラオス国立大学 ビエンチャン	TOEFL iBT 57点以上 または 同等レベルの英語能力
フィリピン	パーベチュアル・ヘルプ大学 ラスピニャス/マニラ近郊	TOEFL iBT 50点程度 または IELTS 5.5(Overall)程度 各5.0(L, R, W & S)程度

※① 語学力の目安は平成30年12月現在のものであり、協定校側から変更通知がある場合があります。

※② L=Listening, R=Reading, W=Writing, S=Speaking

※③ 学部により異なる場合があります。

※④ 私費による派遣のみとなります。

※⑤ 平成30年度からの新規協定校です。

国籍別留学生受入数

平成30年12月1日現在

国籍	国籍別総数	合計	52
中国	15	私費	37
韓国	12	協定	15
台湾	7	国費	0
香港	3		
ベトナム	2		
カンボジア	1		
マレーシア	1		
ラオス	1		
ポーランド	2		
ドイツ	3		
イギリス	2		
エストニア	2		
チェコ	1		

JASSOの外国人留学生在籍状況調査に準じ、「留学」の在留資格を持つ者を対象としています。

本学学生派遣数

平成30年12月1日現在

国	人数
アメリカ	6
チェコ	3
台湾	2
中国	2
ポーランド	1
イギリス	1
ルーマニア	1
ドイツ	2
韓国	3
合計	21
協定	20
私費	1

JASSOの日本人学生留学状況調査に準じ、平成30年4月1日以降に留学を開始した学生数をカウントしています。

注① 平成30年3月31日以前から継続している留学は含みません。

注② 英コミの半セメスター留学および短期語学研修は含みません。

留学説明会について

留学に興味のある方は、
留学説明会に
出席してください。

春派遣は4月、秋派遣は9月に開催を予定しています。日時の詳細は、国際交流推進センター掲示板をご確認ください。

表千家茶道部

ごきげんよう。表千家茶道部、裏千家茶道部です。

学習院女子大学近隣の戸山公園から野点のご依頼をいただき、初めての試みではありましたが、2018年5月に行われた戸山公園主催のつつじ祭りに学習院女子大学の茶道部としてお茶会を開かせていただきました。

普段、表千家茶道部と裏千家茶道部は合同での活動や合宿、お茶会などを行っていませんでしたが、この戸山公園の野点で初めて一緒にお茶会を行うことができました。流派が異なるとお点前も変わってくるので、最初は本当に合同でお茶会を開けるのかと心配もありましたが、お稽古や交流を

重ねるうちに、たとえ流派が異なろうと美味しいお茶とお菓子でおもてなしをしたいと思う気持ちは同じであることに気づき、各々の流派を理解し尊重することで、より良いお茶会になったのではないかと思います。

お茶会当日は約300人の方に足を運んでいただき、お茶を楽しんでいただけました。今回は合同で行ったからこそ成功したお茶会であり、とてもよい経験を行うことができました。今後ともお稽古に励みつつ、地域の方々や他大学との交流も大切に活動していきたいと思っています。



表千家茶道部
日本文化学科3年
雨宮 千夏

裏千家茶道部
国際コミュニケーション学科2年
坂田 真由

女子ラクロス部

こんにちは！

女子ラクロス部です！！

私たちは現在関東学生リーグの一部に所属しています。2015年に二部に降格してから約2年間二部リーグを経験して、2017年に悲願の一部昇格を果たしました。今年は関東制覇という目標を掲げ活動していましたが、その目標を達成する事は出来ませんでした。2019年のチームではこれま

での先輩方の思いを背負って、より一層練習に励んでいきます！

是非みなさんも一度ラクロスを見てみてください！

女子ラクロス部
日本文化学科3年
横山 佳代



箏曲部

ごきげんよう。私たち箏曲部は生田流師範のお二人のご指導のもと、週1回金曜日に互敬会館3階和室にてお稽古をしています。お稽古は、授業の後に各々練習を行います。基本的には授業を優先していますが、無理なくお免状を取得できるような活動を行っています。ほかにも定期的に部員同士の親睦を深めるために食事会などを開催したりして、とても明るい雰囲気での部活です。

10月の大学祭では戸山ラウンジにて演奏会を行い、例年振袖姿で演奏し、今年もとても華やかな舞台にすることができました。今年は箏をテーマとしたアニメ作品「この音とまれ!」に登場するオリジナル曲、龍星群を演奏しました。

龍星群は6人で一人ひとり違うパートを演奏します。大変難しい合奏曲でしたが、各部員の普段の練習の成果をお見せできるいい機会になったと思います。

ほとんどの部員は初心者で、大学で初めてお箏に触れたという人ばかりです。初心者も経験者も学年問わず大歓迎です。少しでも興味のある方は気軽に体験にお越しください。

箏曲部

日本文化学科3年

石井 真理子



雅祭とは、毎年4月に行われる新入生歓迎会のことです。本学の委員会、公認団体クラブの紹介や新入生同士の交流の場となるような企画を行い、新入生の皆さんが本学でのこれからの学生生活を快適に過ごせるような場所を提供しています。

新入生の皆さんにより一層楽しんでいただけるよう、委員が丸となり企画や運営に様々な意見を取り入れたことでより良い雅祭を創ることができたと自負しております。

今年度は天候にも恵まれ、例年よりも多くの新入生に参加していただくことができました。新入生の皆さんには、抱えている不安を解消して楽しんで大学生活を送って

雅祭を終えて

2018年度 雅祭実行委員長
国際コミュニケーション学科2年
森澤 七海

ていただきたいという思いのもと、委員一同活動してまいりました。そのために、在学生との交流の時間を増やしたり、友人をつくる際に気軽に話すことのできる空間作りを実現させようと奔走しました。雅祭本番を迎え、新入生の皆さんの笑顔や楽しんでいる姿を見たときに感じた喜びは忘れられません。

新入生の皆さんにとって、この雅祭が新しい一歩を踏み出せる機会になつていれば幸いです。

最後に、委員やご協力くださった教職員の方々の皆さま、各団体の皆さま、関係者の皆さまにこの場をお借りしてお礼を申し上げます。



「和祭」を振り返って

2018年度 大学祭実行委員長
国際コミュニケーション学科3年
中泉 沙菜

ごきげんよう。

今年度の和祭は10月6日、7日に行われました。例年雨が多い中で、の大学祭でしたが、今年はお天気にも恵まれ大成功に終わりました。皆様のおかげで今年20周年を迎えたこの歴史ある学習院女子大学という場で、今年度も無事に大学祭を開催することができたこと、そして大学祭実行委員という立場で携われたことを本当に嬉しく思っております。

今年度の和祭は「Flower」をテーマにした。私色の花」というテーマのもと、委員一同活動を進めてまいりました。まずは私たちがテーマに込めた想いやなぜこのテーマを選んだのかをお話し

たいと思います。

私たち大学祭実行委員会は14の個性豊かな部署から成り立っています。その14部署の長、そして私とで話し合い今回のテーマを決定しました。毎年大学祭にはそれぞれ違ったカラーがあります。今年のテーマを決める際には「優しい雰囲気、女子らしさを織り交ぜた大学祭にしたい」という想いを抱いていました。もちろん目に見えないものなので私たちらしい、というのには難しいものですが、その中で「Flower」というテーマが上りました。花には多様な種類、そして鮮やかな色があります。花は花束など集まっていれば華

やかに、一輪であっても強く優しい印象を受けます。その2点を大学祭に必要な一致団結すること、またそれぞれが輝くことに結びつけました。このテーマは一人一人が自分の個性を大切に、和祭が自分色の花を咲かせる場であってほしいという想いを込めてつけたのです。

4月から本格的な活動が始まりましたが、委員の皆が同じ目標に向かって同じ温度の気持ちで活動を進めていくということが一番難しかった点だと思えます。せっかく委員長に選んで頂いたのに、役職名だけで気持ちを追いつかず、様々に考えを巡らせ、悩んだ時期もありました。しかし今大学祭実行委員会とし

ての活動が終わり、残ったことはやりとげた充実感そしてどんな時も思いやりを持つことの大切さでした。この和祭では、いつも私たちの心に寄り添って下さった学生部の方々、私の心を支えてくれた各部署長の皆、協力してくれた委員の皆、様々な素敵な人たちに会えました。私の中でこの和祭で感じたことの全てが宝物です。

最後になります。和祭を開催するにあたり、ご理解、ご協力を頂きました教職員の皆様、地域、企業の皆様、卒業生の方々、そして在校生の皆様に委員一同厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



キャリア支援部のサポート体制

本学のキャリア支援セミナーは、全学的に授業がない木曜日5時限目やお昼休みなど、学生の負担にならない時間帯に開催しており、参加しやすい環境を整えることで学業と就職活動の両立を図れるようにしています。多くのセミナーは1年生から参加できますので、積極的に参加して、早期から自身のキャリアプランについて考えてみましょう。

キャリア支援スケジュール(平成30年度実績)

開催月	セミナー内容
4月	・女子学生のための公務員セミナー～意外と知らない公務員の魅力～ ・前期 就活スタートアップ講座
5月	・4年生対象 学内合同企業説明会 ・インターンシップガイダンス ・キャリアアプローチ 解説&活用ガイダンス ・就職ガイドブック活用セミナー「自分の強み発見」 ・就職ガイドブック活用セミナー「社会・仕事について知る」
6月	・4年生対象 学内合同企業説明会 ・インターンシップを探そう! ・インターンシップ相談ブース(5日間) ・筆記試験対策講座 ・好感度アップのメイク術・写真術講座 ・内々定者インタビュー(全2回) ・インターンシップ ES対策講座 ・就職活動に差がつく!日経新聞の読み方・業界研究講座 ・第一印象で勝つ!自分磨き講座「就活における輝くビジネスマナー」
7月	・4年生対象 学内合同企業説明会 ・4年生の先輩による就職活動報告会 ・企業人事担当者との座談会
8月	・筆記試験対策講座(非言語)
9月	・4年生対象 学内合同企業説明会 ・アナウンサー試験対策講座 ・後期 就活スタートアップ講座
10月	・公務員試験対策 個別相談会 ・職種研究講座 ・業界・企業研究の方法 『会社四季報』からわかる!～いい会社・悪い会社の見分け方～ ・面接対策セミナースタートアップガイダンス (OG/4年生の就職準備講座) ・ES・履歴書作成のポイント講座 ・メイク・就職写真アドバイス講座 ①概要編と面接に必要な姿勢&表情編 ・内定者インタビュー(全3回) ・面接対策基礎講座～面接について知ろう～ ・外国人留学生の就職活動について
11月	・超大型企画!～内定者への個別相談・質問会～ ・業界研究セミナー 航空/鉄道/不動産/商社 ・グローバルに活躍するためには～国際機関(国連・ユニセフ等)で働く方法～ ・航空業界志望者対象 ES・面接対策講座 ・内定者インタビュー(全2回) ・筆記試験対策講座 ・メイク・就職写真アドバイス講座 ②身だしなみヘア&メイク～実演編～ ・業界・企業研究の進め方 ・グループディスカッション講座～座学編～ ・外資系航空会社セミナー ・学内写真撮影会 ・玉手箱対策セミナー ・面接時のマナー講座
12月	・メイクアップ講座 直前編 ・人気企業の採用の仕組み、人事のホンネ講座 ・面接対策セミナー ・業界研究セミナー 旅行/航空/銀行/商業施設の管理・運営 ・SPI3対策セミナー
1月	・業界研究セミナー 物流/証券/銀行 ・学内写真撮影会
2月	・筆記試験対策講座(非言語) ・業界研究セミナー ・優れた優良中堅・中小企業の探し方講座 ・志望動機対策講座 ・本番直前!模擬面接講座

学習院女子大学の

就職力

例年、金融業を中心に高い就職率を維持しています。また、国際系学部の強みを活かし、グローバル企業や運輸業界への就職実績が高いことも特徴です。小規模校のため、各企業への就職者数では、大規模総合大学の陰に隠れてしまっていますが、実就職率ランキングでは、本学が健闘していることがわかります。

速報!

充実したキャリアサポートにより、
本学の学生は社会で高い評価を
いただいています。

キャビンアテンダント
(CA)に強い大学

著名400社への
実就職率編

1 全国
位

(大学通信調べ)

2 全国
位

著名400社は、日経平均株価指数の採用銘柄に加え、会社規模や知名度、大学生の人気企業ランキングなどを参考に、大学通信が選定

著名400社
業種別実就職率
(金融編)

実就職率
学部系統別編
(国際系)

4 全国
位

(大学通信調べ)

3 全国
女子大
位

(大学通信調べ)

<平成30年度 業界研究セミナー 主な参加企業>

あいおいニッセイ同和損害保険、アクセンチュア、アニヴェルセル、ANAエアポートサービス、オンワード樫山、共同印刷、近鉄エクスプレス、クリナップ、警視庁、コーセー、シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテル、ジェーシービー、JALスカイ、小学館、住商エアロシステム、住友商事グローバルメタルズ、積水ハウス、全日本空輸、高見、千葉銀行、東急建設、トランス・コスモス、長島・大野・常松法律事務所、日本通運、日本航空、日本生命、日本マスタートラスト信託銀行、野村證券、ホテルニューオータニ、ボーネルンド、みずほフィナンシャルグループ、三井住友海上火災保険、三井住友銀行、三越伊勢丹、三菱UFJ銀行、三菱UFJ国際投信、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、郵船コーディアルサービス、ゆうちょ銀行、リソナグループ、和光 他(五十音順)



伊藤 園

平成31年3月
日本文化学科 卒業

森 下 理 子

私は就職活動をする中で、企業選択の際には日本文化を世界に広められる企業に絞っていました。それは大学四年間でみっちり日本文化に触れてきて、日本文化の魅力を国内はもちろんのこと、世界に伝えていきたい!と強く思ったからです。

就職活動において私が一番大切にしていたことは、なんとかの精神で物事を常にポジティブにとらえ、マイペースでいることです。やはり就職活動時期になるとどうしても周りの就職活動への取り組み方や進捗状況などが気になり焦りや不安が押し寄せてきてしまいます。しかしそんな時で

も自分は自分、人とはペースが違うのだと常に言い聞かせていました。その心がけが心に余裕を生み、面接ではリラックスして挑むことができました。とはいってもやはり多少の緊張はしてしまうものです。そこで、完璧に話せなくても、一緒に働きたいと思ってもらえるような話し方や雰囲気づくりを意識しました。また、就職活動中だからといって一人でいる時間ばかり作るより、友人と会う時間をなるべく多く作ったほうが、前向きになれるのでおすすめです。

周りへの感謝と笑顔を忘れずに、気を張らずマイペースで挑んでください。応援しています!

就職活動では沢山の方に支えられていることを実感致しました。大学3年生の冬、将来への期待と不安で一杯であったことを覚えています。不安な気持ちを少しでもかき消すため、学内の就職対策セミナーや、企業説明会に積極的に参加していました。

溢れるほどの情報を、信頼のおけるキャリア支援部の方のお話や、友人との情報交換によって、必要かどうか、見極めるようにしていました。

そうした中、内定先の方々と出会い、親身になって相談に乗ってくださる温かいお人柄と、情熱を持ってお仕事をされる姿勢に大変感銘を受け、強く惹かれました。私も、これから温

かく熱意を持ち、誰からも愛される客室乗務員を目指して参ります。

就職活動は、思い通りにいかず、苦しく感じることもありましたが、周りの方々の支えのおかげで少しずつ乗り越えることができました。家族、友人、キャリア支援部の方々等、私を支えてくださっていたことに改めて気付くことができ、感謝の気持ちで一杯です。

これから就職活動を始められる皆さま。全ての出会いや経験が財産になると思います。周りの方々やこれから出会う方とのご縁を大切に、目標に向かって頑張ってください。心から応援しています。



日本航空

平成31年3月
国際コミュニケーション学科 卒業

坂 間 美 奈 子



ヤフー

平成31年3月
国際コミュニケーション学科 卒業

大 野 奈 菜

私の座右の銘は「人は作り方次第」です。もともと自分に自信がなく、限界をすぐに決めてしまう性格でしたが、「大学4年間は自分自身を作る期間」だと学び自分の個性開発のため様々なことに挑戦しました。今も私はセレンディビティーを大切にしています。自分から新しい世界に飛び込む勇氣や偶然の出会いを変化するチャンスに変えていく力が自分の運命を変えようと思うからです。私自身、多くの学びを与えてくれる社会人の方と積極的に交流して人脈も広がり、成長できる様々な機会を頂けるようになりました。就活をする中で、迷いや焦り、妥協してしまう心が生じ

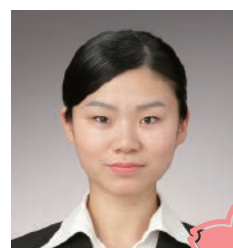
ることもありましたが、本当にこの企業に自分が行くべきなのか正直途中では分かりませんでした。自分が納得するまでやってこそ確信を持つことができるので、人と比較せず最後まで諦めないで欲しいです。就活は自分自身と向き合い、成長させることができる楽しい人生のビッグイベントです。不安の方が大きい人もいるかもしれませんが長い人生で考えたら何度も変化できるチャンスはあると思うので、面接の結果に一喜一憂せず、今まで自分がやってきたことに誇りを持って堂々と自分を表現できたら大成功だと思います。

進路を考え始めたのは、留学から帰国した大学3年生の2月です。将来を考えるにあたって、私はいわゆる就活の型にとらわれず、様々な人の話を聞くことを意識しました。実際、1つの仕事に長く勤めている方からキャリアアップのための転職をしている方、そして世界各地でお仕事されている方などに会い、多くの刺激を受けることは進路選択において有用でした。私の場合、5月には公務員を目指すことを決め、翌月から塾に通いました。

私はそこから勉強の日々を送りました。精神的に辛いことも多いですが、塾で友人を作ったり、憧れの場所へ足を運

んだりしながらモチベーションを保つことが重要です。私もそのお陰でどうにか最終合格することができました。

公務員に限らず、学習院女子大学から就職する方が少ないお仕事を目指す方は、是非支え合える友人を作って下さい。特に前例がない場合は、それだけ厳しい道であることを覚悟して頂きたいです。また、試験にとらわれすぎてもいけません。面接が勝負になる場合、試験以外の何かで個性を発揮しなければなりません。勉強以外に、いくつか自信を持てる資格や経験を作るよう、有意義な学生生活を送って下さい。



横浜市

平成31年3月
英語コミュニケーション学科 卒業

栗 原 美 晴

●2018年3月卒の就職状況について

2018年3月卒の就職状況は、企業の積極的な採用姿勢もあり99.3%という高い就職率となりました。

経団連の「採用選考に関する指針」に基づき、3月広報解禁、6月選考解禁というスケジュールは維持される中、夏以降にインターンシップを開催する企業が増加しました。4年生6月早々に就職活動を終える学生が多かった一方で、インターンシップへ参加したことで業界・企業を絞り込んで就職活動を進める傾向がやや強まりました。

業種別就職先では、金融・保険業が前年度31.6%から23.6%と割合を減らしたものの、就職先上位10社は、例年どおり金融業界と航空業界が占めています。金融が一般職の採用を大幅に減らす中、職種別で見ると、総合職で就職する学生が前年度39.8%から45.9%に増え、一層強まる傾向にあります。就職先も多様化しており、様々な業界で活躍する卒業生が増えてきています。

●2019年3月卒の内定状況について

2019年卒採用スケジュールは、前年同様の3月1日広報解禁、6月1日選考解禁、10月1日正式内定日のスケジュールで行われました。ワンデーでのインターンシップが容認されたことを背景に、夏以降にインターンシップを開催する企業が増加し、参加者限定の早期選考を目的とした説明会開催、インターンシップそのものが採用に直結した事例もあり、実質的な選考の前倒しがより一層加速しました。

学生有利の「売り手市場」は継続しており、企業側の採用意欲は非常に強い状態が続いており、連日、メディアでの高い内定率に関する報道を受けて、学生達に焦りが見られました。

また、事務業務はA1を積極的に導入する動きが活発となり、メガバンクでは大幅に一般職採用を減らしたことで、各業界において一般職の競争が激化する状況が窺えました。

本学の状況としては内定率は6月以降順調に伸び、12月末時点で9割を超える学生が進路を決めています。

●2020年3月卒の就職活動について

次年度は採用スケジュールの変更はなく、3月広報

解禁、6月選考解禁がすでに決定しています。しかし、2021年3月卒の就職活動のスケジュールについて、これまで経団連が「採用選考に関する指針」として定めてきたルールを撤廃したことを受け、各企業の動きの多様化が予想され、スケジュールの大幅な前倒しや選考方法の見直しを行う可能性もありますので、油断はできません。

キャリア支援部では、3月以降の活動をスムーズに始められるよう、2月の業界研究セミナーでは、全11日間に渡り、100社を超える企業の方にお越しいただき、様々な角度から業界のお話をさせていただきました。

本誌がお手元に届く頃には、すでに広報解禁を迎えており、連日、企業へのエントリーシートの提出や、説明会への参加で忙しい毎日を過ごしていることと思います。今後、エントリーシートが思うように書けなかったり、面接で失敗したり、様々な場面に直面すると思いますが、キャリア支援部では随時相談を受け付けていますので、ひとりで悩まず、まずは気軽に立ち寄ってみてください。

また、進路先が確定した場合には、『内定・進路決定登録(G-Port上での登録)』を必ず提出いただく必要がありますので、ご協力をお願いします。

平成29年度 (2017年度) 就職状況 (2017年9月・2018年3月卒業生)

平成30年3月31日現在

卒業決定者	431人
就職希望者	402人
就職希望率	93.3%
就職内定者	399人
就職内定率	99.3%

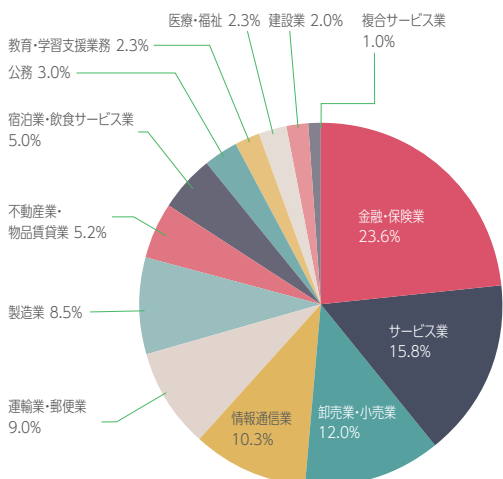
マスコミ掲載記事等(2017年度卒業生実績)

キャンピアンテンダント(CA)に強い大学 **全国1位**
(2017年 大学通信調べ)

銀行に強い大学 **全国女子大1位**
(2017年 大学通信調べ)

実就職率 学部系統別編(国際系) **全国女子大5位**
(2017年 大学通信調べ)

平成29年度 学習院女子大学業種別就職状況-主な企業-



主な就職先(数字は就職者数)

産業	企業名
金融・保険業	みずほフィナンシャルグループ(7)、りそなホールディングス(6)、三菱東京UFJ銀行(5)、日本マスタートラスト信託銀行(4)、SMBC日興証券(3)、共栄火災海上保険(3)、商工組合中央金庫(3)、損保ジャパン日本興亜(3)、千葉銀行(3)、三井住友信託銀行(3)、明治生命保険(3)、あいおいニッセイ同和損害保険(2)、かんぽ生命保険(2)、ジェシービー(2)、セゾンドットコム生命保険(2)、多摩信用金庫(2)、日本生命保険(2)、三井住友銀行(2)、あおぞら銀行、アコム、朝日生命保険、AIGジャパン・ホールディングス、エージェント、SBJ銀行、京葉銀行、ジェイアールエス保険サービス、しのめ信用金庫、ジャパンネット銀行、城南信用金庫、新生銀行、集陽信用金庫、住友生命保険、セコム損害保険、損害保険料率算出機構、太陽生命保険、第一生命保険、千葉興業銀行、千葉県信用保証協会、千葉信用金庫、東京東信用金庫、東和銀行、日産フィナンシャルサービス、野村證券、水戸証券、八十二銀行、富国生命保険、ほけんの窓口グループ、丸三証券、みずほトラストオペレーションズ、三菱UFJ国際投信、三菱UFJ信託銀行、武蔵野銀行、ユーシーカード、オリエントコーポレーション、クレディセゾン
サービス業	郵船コディアルサービス(2)、キャプラン(2)、JALナビ(2)、ジェイ・エス・エス(2)、伊藤忠フィナンシャルマネジメント、住友商事フィナンシャルマネジメント、みずほビジネスサービス、三井住友トラスト・ビジネスサービス、MS&AD商事サービス、エン・ジャパン、TMI総合法律事務所、創興国際特許法律事務所、新樹法律事務所、アディーレ法律事務所、エイチ・アイ・エス、エフオープランニング、enjin、オプト、オリコムサービス、クラブツーリズム、CRAZY、Kスカイ、佐川アドバンス、ゾールホールディングス、JTBBビジネスネットワーク、JTBBワールドパーク・ショールズ、スパティウムアデレ、セントロイスコーポレーション、ダイジヨ・グローバル・クリエティン、施工、鶴岡1階宮、ティグランドギヴ・ニーズ、東京倉庫、東西、TREES、トーマツ、トヨタエンタプライズ、ニチ学館、農協観光、日本電信協力センター、日本中央競馬会、日本品質保証機構、Nollyz Malaysia Sdn Bhd、パリューマネジメント、ひまわりパルサービス、富士通エフサス、ブレイブ、ボードルア、ミューゼプラチナム、メディア&リサーチ、ユニマッドプレジヤス、レジェンダ・コーポレーション、レバジャーズキャリア、パーソルテンプスタッフ、グローバルスタッフ、SOMPOビジネスサービス、エイジェックグループ、協栄、アルファテック武蔵野
卸売業・小売業	ソフトバンクコマース&サービス(2)、伊藤忠食品、住友商事マネックス、住友商事グローバルメタルズ、三菱商事エネルギー、日鉄住金物産、日本紙パルプ商事、日本出版販売、花王カスタマーマーケティング、カスミ、ガモウ、キャメル珈琲、極洋、クオール、サザビリー・アイシー・エルカンパニー、JALUX、JFE商事、JFE商事薄板建材、ジーユー、ジェイアール東海高島屋、ジェコス、スギ薬局、ディー・エイチ・シー、ナリカ、西川産業、日本調剤、日立金属商事、ファッション・コラボ、フォーバル、富士機械、ヘネス・アパレル・ソリューション・ジャパン、ホリヤ、松屋、三越伊勢丹フードサービス、三松、ムーンバット、メトロコマース、ユニテッドアローズ、ルイ・ヴィトンジャパン、ロクサンジャパン、米田三越、赤尾、アークアラレモン、アダストリア、アニメイト、稲畑産業、カインズ
情報通信業	ソフトバンク(3)、ジェイ・エス・コミュニケーション(2)、マイナビ(2)、ITサービスフォース、アドバンストラフィックスシステムズ、ANAテレマート、A.M.Yクリエイティブ、英揮情報システム、エイム・ソフト、A-1 Pictures、エスワン・インタラクティブ、クロスキャスト、KSK、コーソル、JR東日本情報システム、セネラルリンク、ソネット・メディア・ネットワークス、ソフトクリエイト、ソリトンシステムズ、ディコンプレックス、ディーケービー、テンジシステムコンサルティング、テレビマニュエーション、トランスコスモス、日本ソフトウェアクリエイティブ、日本タココンサルタント・サービス、パンダインカムコエンターテインメント、PCIソリューションズ、東日本電信電話、富士ソフト、富士通エフ・オー・エム、富士通コミュニケーションサービス、ボンデジタル、マクロミル、LAUGH TECH、琉球朝日放送、日立システムズ
運輸業・郵便業	全日本空輸(10)、日本航空(4)、ANAエアポートサービス(4)、住商グローバル・ロジスティクス(2)、中国国際航空(2)、フィリピン航空、ANAウイングス、伊藤忠ロジスティクス、FMG、キリングループロジスティクス、JALSカイ、JBネットワーク、株式会社神奈中アカウンティングサービス、Scoot Tigerair Ptd Ltd.、渡運速達、日新エアカゴ、日本通運、日立物流/バンテックフォワーディング、ヤマト運輸
製造業	新日鐵住金(3)、桂新堂(2)、アサヒビール、アーツアンドクラフツ、赤坂桐山、アルプス電気、伊勢半、オンワード樺山、カルソニックカンセイ、クリスタルジェミニ、広研印刷、コセー、古河電気工業、サンクセラー、JFE鋼板、スズキ、セイコークロック、セーラー万年筆、太陽誘電、大堀工業、チャコット、デンソー、東ソー、日本製薬、福島工業、マツダ、村田製作所、ヤクルト本社、ユーピーアール、ロムム、ワコール
不動産業・物品賃貸業	ケン・コーポレーション(2)、住友不動産販売(2)、アールエイジ、MDI、SMFLキャピタル、コミュニティワン、大栄不動産、高見、電通ワークス、東急リパブリック、東京セキスイハイム、野村不動産アーバンネット、みずほ不動産販売株式会社、三井不動産ビルマネジメント、三井不動産リアルティ、三菱UFJ リース、ムゲンエステート、ランドネット
宿泊業・飲食サービス業	アパホテル(3)、大江戸温泉物産グループ(2)、ニュー・オータニ(2)、星野リゾート(2)、ウェスティンホテル東京、銀座アスター・食品、セルリアンタワー東急ホテル、東和フードサービス、鳥仙、日本ビューホテル、プリンスホテル、ホスピタリティオペレーションズ、ホテルグランドパレス、ホテルパーク、すかいらーく
公務	埼玉県市町村(除さいたま市)(3)、神奈川県市町村(除横浜・川崎市)(2)、茨城県警察本部、神奈川県警察本部、警視庁、厚生労働省、埼玉県警察本部、埼玉県人事委員会、さいたま市人事委員会
教育・学習支援業務	学習院(2)、桐朋学園、上尾市立南中学校、イオン、経済法研究会、日本教育クリエイティブ、日本入試センター、NOVAホールディングス
医療・福祉	アイクリニック千葉、がん研究会、湘南鎌倉総合病院、聖路加国際病院、ちば県民保健予防財団、日本年金機構、ベストライフ、保育園みつばち、やさしい手
建設業	アールシーコア、アクアホーム、旭化成ホームズ、積水ハウス、日揮、松家ホールディングス、細田工務店、三菱地所ホーム
複合サービス業	日本郵便(3)、大学生協東京事業連合

学習院父母会の 近況報告

学習院女子大学 父母会会員の皆様へ

学習院父母会会長 小堀 正晴

「ご父母の皆様には本会の運営につきましてご理解賜り感謝いたしております。

学習院父母会は、学習院全体の経営、教育に参画し支援する組織であり、その目的に従ってさまざまな活動をしていきます。これは他の学校法人には見られない特徴です。本会は、園児、児童、生徒、学生が学習院において充実した学校生活が送れるように多岐にわたって支援することを第一の役割であると考えております。それは、学習院で学ぶ子ども達が社会人となり、明日の日本、世界の一翼を担う人材として成長することを願っているからです。本会は皆様から頂戴する年会費で運営されております。皆様と供に、ご子女のご成長、ご活躍をお祈り申し上げます。

● 学習院父母会事務局より

学習院女子大学のご父母(保証人)の皆様には常日頃より、学習院の学校運営にご理解と多大なるご協力をいただきまして、平成30年度の学習院父母会の運営も滞ることなく進んでおります。学習院父母会の事業運営報告等につきまして「Yawaragi 学習院女子大学だより」に掲載いただけますことを感謝いたしております。

● 父母会の主要事業

(1) 父母会奨学金制度 (平成13年度創設)

学習院に在学する学生、生徒等が父母保証人の死亡などに起因し、家計が激変したことにより、学費の支弁が困難と認められる勉学熱心な者に対し、選考のうえ、年15名以内、年額授業料・維持費(高等科以下の名称)・施設設備費(大学及び女子大学の名称)相当額を学習院在学中1年度に限り給付するものです。平成30年度は5名(大学5名)の学生へ給付いたしました。

(2) 父母会課外活動等助成金制度 (平成13年度創設)

現代は単に学問だけでなく、スポーツ・文化などを含めた広く大きな「人格形成」が教育の場に求められています。そこで父母会は、大学、女子大学、男女中・高等科及び初等科の運動部・文化部等の課外活動に対し積極的に助成しております。

- ・各部・各クラブの備品用具等へ助成する一般助成金について、平成30年度は各学校合計58件でした。
- ・父母会課外活動等優秀賞・奨励賞受賞について、平成29年度は各校合わせまして、優秀賞は団体13件、個人60件、奨励賞は団体1件、個人17件でした。

● 父母会の近況報告

(1) 地方における「地震災害による被災者父母保証人」へのお見舞い等

新潟県中越地震(平成16年)、福岡県

西方沖地震(平成17年)、新潟県中越沖地震(平成19年)、岩手・宮城内陸地震(平成20年)、それぞれ、お見舞金を贈呈しました。

平成23年3月11日、東北関東地域に発生した甚大な災害に当たって「学習院東日本大震災義援金」へ100万円を募金しました。

また、東日本大震災罹災学生(大学及び女子大学に申請・認定の学生)に対して生活支援金(平成23年度の時限措置)を支給しました。

(2) 「オール学習院の集い」への協力
恒例の「オール学習院の集い」に対して、法人へ寄付をすると共に、常任幹事の方々には当日の運営にご協力いただき、「共催」の役目を務めております。

(3) 大型物件の寄贈及び寄付
・百周年記念会館小講堂の椅子の老朽化に伴い200脚寄贈(平成20年)
・学習院女子大学へグランドピアノ(スラインウェイC227)の寄贈(平成21年)

- ・幼稚園へAED及び保健室へAED訓練用人形の寄贈(平成21年)
- ・学習院女子中・高等科テニス・バレーコート人工芝化改修工事費の寄付(平成22年)
- ・校外施設(沼津游泳場・妙高高原)地デジ対応テレビ等買い替えの寄付(平成22年)
- ・幼稚園へステンレス製オリジナル2連登り棒を寄贈(平成23年)
- ・各学校(大学・幼稚園)へ災害時整備計画に基づく備蓄品等を寄贈(平成24年)(女子大学用備蓄品として、ア

ルファ米2100食及びサバイバルパ
ン2016缶を寄贈)

・学習院大学へ西5号館1階「学生
ホール」内設置の椅子188席を寄
贈(平成26年)

・学習院大学へ輔仁会館前噴水広場
用屋外チェア16脚を寄贈(平成27年)

・初等科本館1階「図書室」内設置の
机9台、椅子36脚、及び材料台4台
を寄贈(平成29年)

・学習院女子中・高等科総合体育館の
綴帳一式を寄贈(平成29年)

・学習院中・高等科第2テニスコート
人工芝化(オムニコート)工事費用の
寄付(平成29年)

・各学校(大学、中・高等科、女子中・高
等科、初等科)のAED新規設置に
伴う費用の寄付(平成30年)

・学習院女子大学テニスコート(人工
芝)新設・整備費用の寄付(平成30年)
・幼稚園電動「ひさし」設置工事費用
の寄付(平成30年)

おわりに

以上のように学習院父母会は直接あ
るいは間接に学習院の経営、教育に参
画、支援をしている組織です。皆様と共
に、これからも学習院を支え、より良
い学校にする努力を続けて参りたいと
存じます。

父母会本部事務局は目白キャンパス
の学習院創立百周年記念会館2階に
ございます。用節はご遠慮なく、
ご連絡下さい。

開室時間 月～金 9時～17時
TEL&FAX: 03-3988-3226

雅祭に参加して

草上会では、平成29年より女子大学雅祭に参加しています。雅祭は、現役学生が新入生に大学生活になじんでもらうために開催するイベントで、主に課外活動への参加を呼び掛けるものです。

午前中は各クラブの紹介があり、昼食をはさんで午後からウェルカムパーティーと続きます。草上会はこのウェルカムパーティーに茶とお菓子を用意して参加しています。今年は、平成30年4月7日(土)に開催されました。互敬会館1階のメインホールには開始前から入口に行列が出来るほどの賑わいで、運営委員5人で新入生一人一人にクッキーをお渡しして入学をお祝い致しました。

満員の会場は新入生の熱気に溢れていましたが、はじめに雅祭実行委員長から紹介していただき、草上会の由来や活動の紹介などをお話させていただきました。また今年は、新入生の皆さんに草上会(同窓会)の内容をより知っていたきたいとの思いから「草上会たより」もお配り致しました。

同窓生の原点ともいえる新入生の皆さんと茶菓を交えながらお話しが出来ることは、同じ戸山キャンパスに集うものとして大変うれしく思いますと共に、こうした交流の場を通して学生の皆さんと草上会とがより親しくなれるよう願っております。

(安堂 洋子)



学習院女子大学開学20周年記念同窓会に出席して

平成30年10月14日、戸山キャンパスにおいて、学習院女子大学開学20周年記念同窓会が開催されました。現役女子大学生、現旧教職員の方々に加え、女子短期大学・女子大学の卒業生として草上会員もお招きを受け、総勢500名程の出席者となりました。

やわらぎホールでは、元女子大学長永井和子先生のご講演を伺いました。「戸山」という地を主題に、そこに存在する女子短期大学・女子大学の歩みについて、ご自身の思い出を交えながらお話くださいました。

午後には、場所を互敬会館に移し、祝宴が催されました。中では、女子大学長神田典城先生とOB管弦楽団の方々による弦楽四重奏の記念演奏もありました。

他にも、ご講演前の記念映像の放映、特別展「学習院戸山キャンパスの桜木が浮世絵版画になるまで」の開催、現役学生の各団体によるイベントなどもありました。

私達、草上会員も女子短大・女子大、卒業の区別なく、女子大学の開学20周年をお祝いできましたことを嬉しく思い

ます。懐かしい先生方や友人達と母校で過ごすことができ、卒業生としての幸せを胸一杯に感じた1日でした。

開学20周年記念の会を同窓会として開いてくださいましたことに、心より感謝を申し上げます。

(林 眞弓)



草上会 平成30年度の主な活動

4月7日

互敬会館1階メインホール

草上会からは、昨年同様、デュマンのクッキーとお茶を用意して参加しました。開始前、入口は新入生の行列ができるほどの賑わいぶり！お一人お一人にクッキーをお渡して入学をお祝いさせていただきました。



雅祭

4月15日

学習院目白キャンパス

花見茶屋・ヨーヨーつりなど

今年も花見茶屋、ヨーヨーつり、マドレーヌ・お饅頭等の販売で参加いたしました。

いずれも大勢のお客様に喜んでいただき、和やかで楽しい1日を過ごすことが出来ました。



オール
学習院の
集い

6月10日

ホテルオークラ東京

第60回草上会総会・懇親会が開催されました。

総会後の会食では、お料理を楽しみながら、恩師や久しぶりの友人との懐かしい話で盛り上がり、会場は、終始和やかな雰囲気になっていました。

講演「古代人の豊かな想像力～風土記の神話から～」

講師 神田典城学習院女子大学長

風土記を例に古代人のおおらかな発想の仕方について、ユーモアを交えてのお話や、永井元学長がご質問下さったこともあって、お二人の素晴らしいご講義を伺えたようで、女子大学を身近に感じたひとときでした。



総会・
懇親会

10月6、7日

互敬会館3階

ホームカミングデー

講演会は7日に荻野幸子さん(32回生 舞踏家)に「スペイン・韓国・日本・ローマ(ジプシー)の道とシルクロードでつながった表現芸術の世界」をテーマにお話をいただきました。

6・7日開催のバザーは卒業生からのご寄付に加え、委託販売・ボランティアの作品等、今年もお買い物を楽しんでいただきました。



和祭参加

10月30日

クラシックハウスのお食事と迎賓館

雲一つない秋晴れの中、47名の方にお集まりいただきました。美味しいお食事と楽しい懇談の後、皆様、タクシーで迎賓館前に移動、国宝に指定され、外交の舞台ともなっている素晴らしい迎賓館の建物や広いお庭の散策をお楽しみいただきました。



企画

毎月第2水曜日

互敬会館3階草上会洋室

新宿区社会福祉協議会に寄贈する「ふきん」縫い、古切手の収集寄付、和祭バザー用の小物作製等の作業を会員有志が和気あいあいと行っています。



ボランティア

● 詳しくは草上会ホームページをご覧ください
<http://gakushuin-ouyukai-branch.jp/soujoukai/>



専任教員紹介

日本文学学科

荒井 啓子	教授	スポーツ文化論、スポーツ人類学、スポーツとジェンダー学
伊藤 守幸	教授	平安文学研究、比較日本文学研究
今橋 理子	教授	日本美術史(江戸絵画史)、比較日本文化論
岩城 宏明	教授	情報処理、計算科学
岩淵 令治	教授	日本近世史
内野 儀	教授	表象文化論、舞台芸術(演劇・舞踊)論
宇都宮 由佳	准教授	食文化、生活文化
神田 典城	教授	上代文学
木村 直恵	准教授	日本近代史、文化史
越塚 美加	教授	図書館情報学
佐藤 琢三	教授	日本語学(現代語の意味論・文法論)
澤田 匡人	准教授	感情心理学
品川 明	教授	味わい教育、環境教育、生態学、コミュニケーション論、ファシリテーション論
清水 将吾	准教授	情報科学、情報セキュリティ
清水 敏男	教授	現代美術史、アートマネジメント(博物館学)
時安 邦治	教授	社会学・社会思想
徳田 和夫	教授	中世文化論、民俗学、比較文化論
福島 直恭	教授	日本語学、日本語史
福島 雅子	准教授	日本染織史、服飾史

国際コミュニケーション学科

石澤 靖治	教授	メディア関係論(政治・国際関係)
伊藤 由紀子	教授	国際開発論
乾 尚彦	教授	比較居住文化論、生活文化論、東アジア・東南アジア地域研究
ウーゴ・ミズコ	准教授	国際文化協力
宇野 公子	教授	国際経済、金融論、基礎経済学、計量経済学
江藤 正己	准教授	図書館情報学
大桃 敏行	教授	教育行政学、教育制度論
金城 亜紀	教授	経営学、経営史
工藤 晶人	准教授	異文化交渉史、地中海研究
金野 純	准教授	中国を中心とする東アジア地域研究
佐久間 みかよ	教授	アメリカ文化・文学、英語圏文学研究
櫻井 大三	教授	国際法
荘林 幹太郎	教授	地球環境論、貿易と環境、農業・水と環境、農業環境政策
武井 彩佳	教授	ヨーロッパ現代史、ユダヤ史、マイノリティ研究
中島 崇文	教授	中・東欧を中心とするヨーロッパ研究
根占 献一	教授	西洋史学、ルネサンス学
畠山 圭一	教授	国際政治学、国際関係論(日米関係)、アメリカ政治外交
古庄 信	教授	英語学(歴史統語論)、イギリス文化論
羅 京洙	准教授	朝鮮半島を中心とする東アジア地域研究

英語コミュニケーション学科

岩崎 光洋	教授	LL・英米映像文化史
ウィン・グン	教授	ビジネス英語
萱 忠義	教授	応用言語学、英語教育、語彙習得、コンピューター支援言語学習(CALL)
高橋 礼子	専任講師	応用言語学、World Englishes、English as a Lingua Franca
田島 千裕	准教授	異文化コミュニケーション、英語教育、混合研究法、留学研究
ファリア・グレン	教授	Applied Linguistics、English、Intercultural Communication



伊藤 守幸 教授

The Sarashina Diary A Woman's
Life in Eleventh-Century Japan
(Reader's Edition)

共訳

出版社名／Columbia University Press

出版・発行年月／2018.3

内容／The Sarashina Diary A Woman's Life in Eleventh-Century Japan (Columbia University Press, 2014)の普及版。『更級日記』の研究書としての性格を有する前著に対して、解説と注を改稿し、教科書としての利用の便宜を図った。



伊藤 守幸 教授 岩淵 令治 教授

グローバル・ヒストリーと世界文学：
日本研究の軌跡と展望

共編著

学習院女子大学グローバルスタディーズ②

出版社名／勉誠出版株式会社

出版・発行年月／2018.4

内容／学習院女子大学で開催された国際研究会に基づく論文集。日本史研究と日本文学研究の現状を、国際的視座から問い直した。



岩淵 令治 教授

企画展示：ニッポンおみやげ博物誌
執筆

出版社名／国立歴史民俗博物館

出版・発行年月／2018.7

内容／第1章第1～3節、コラム「江戸時代の「土産物」」・「江戸勤番武士の「下り土産」」において、旅行者の日記やガイドブック、および新たに作者を確定した『進物便覧』より、江戸時代の土産物を論じた。



岩淵 令治 教授

日本都市史・建築史事典

編著

出版社名／丸善出版

出版・発行年月／2018.11

内容／日本の都市と建築の歴史を古代から現代まで通覧できる事典。全270項目からなる。編集幹事として近世史の部分を企画し、一部を執筆した。



大桃 敏行 教授

アメリカ教育改革のポリティクス
—公正を求めた50年の闘い—

共訳

出版社名／東京大学出版会

出版・発行年月／2018.11

内容／連邦制国家米国において、1965年に教育の平等保障を目的とした連邦法が成立した。本法の50年の展開を中心に、教育改革をめぐるポリティクスを描いたJ. ジェニングズの著書の翻訳。



清水 敏男 教授

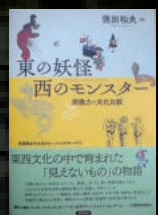
藤田嗣治作品集

著

出版社名／東京美術

出版・発行年月／2018.8

内容／藤田嗣治の全生涯にわたる画業をその変遷をたどり解説した作品集。初期のパリ時代に始まり1920年代のバリの最盛期、1930年代の旅行時代、1940年代の戦争画、戦後から晩年の宗教画にいたるまで最新の研究成果を反映した解説を行った。



徳田 和夫 教授

東の妖怪・西のモンスター
—想像力の文化比較—

編著・執筆

学習院女子大学グローバルスタディーズ①

出版社名／勉誠出版株式会社

出版・発行年月／2018.7

内容／人間は超自然の存在—妖怪・妖精・モンスター—をイメージし、畏敬してきた。この文化営為を民俗学・文化人類学・文学・美術史・思想史から考察する。

図書館から のお知らせ



学生の多様な学びを支援する図書館

多様な学生の多様な学びをサポートしたい。このような思いから、教養の獲得、英語学習支援、キャリア支援、バリアフリー化、学生協働など、図書館従来のサービスである貸出だけではない取組を進めています。これらの取組の結果、減少傾向にあった利用数は反転し、着実に増加しています。今後も学生ニーズを起点に、より役立つサービスを開発・改善・実践していきます。

■AVシステムリニューアル

本学では映画や演劇を題材に卒業論文を執筆する学生も多いため、図書館に18席のAVブースを設置しています。9月よりAVシステムをリニューアルし、学生証があればID認証による簡単な手続きでブースを利用できるようになりました。今後はWeb経由での予約も開始する予定です。

■バリアフリー化への取組

夏季休暇中、館内に点字ブロックと点字シールを設置しました。従来から設置している「Library's Laboratory（通称：リブラボ。点字プリンタ、読み上げソフトをインストールしたPCを設置した部屋）」とともに館内バリアフリー化の取組を進めています。また、必要な方にはスタッフが図書館から付き添って教室棟や正門までご案内しています。

■ライティング支援セミナーの開催

9月と12月に外部講師を招いたライティング支援セミナーを開催しました。レポートや卒業論文の執筆をサポートするセミナーです。約200名の参加があり、盛況のうちに終了しました。アンケートでは参加した学生の99%が「役に立つ」と回答していました。今後も内容をさらにブラッシュアップして継続していきます。

■英語多読コーナーの設置

10月より、英語多読本約1,200冊を集めたコーナーを設置しました。英語多読は「簡単な英語を大量に読むことで英語を英語のまま読めるようにする」トレーニングです。洋書の貸出冊数が昨年同期比で2.5倍増加し、英語学習に対するニーズの高さが窺えます。すでに多読のほかにもTOEICやTOEFL、IELTSといった対策本も収集しています



1,200冊が並ぶ英語多読コーナー

が、英語学習に関する資料は今後も注力分野として積極的に収集していきます。

■キャリア支援セミナーの開催

就職に役立つ資料・データベースをまとめたものとして「就職活動に役立つパスファインダー」を配布しています。これに加え、今年度初めて開催した新セミナーがキャリア支援部と共同開催した「日経テレコン21（日経新聞を検索できるデータベース）講習会」です。今後も「キャリア支援」という切り口から図書館資源の有効活用を継続していきます。

■都内の女子大学図書館とのコラボレーション

昨年に引き続き、紀伊國屋書店新宿本店において「東京の女子大学学生が選んだおすすめ本」フェアを開催しました。昨年12日間だった会期は大幅に延び、12月3日（月）～27日（木）までの25日間となりました。本フェアは都内の主要な女子大学である白百合女子大学、聖心女子大学、清泉女子大学、東京女子大学、東京家政大学、日本女子大学の各図書館にご参加いただき、7女子大学で協力して開催しました。約60冊の本とともに、各大学の学生選書委員が作成したPOPカードが華やかに書棚を彩りました。今後も、学生協働、他女子大学図書館との連携や協力体制の構築に向けて取り組んでいきます。



学生がデザインしたポスター



学習院女子大学 学生数 一覧

学科	日本文化学科	国際コミュニケーション学科	英語コミュニケーション学科	合計	大学院修士課程
1年	164	209	58	431	2
2年	173	204	55	432	7
3年	174	209	54	437	-
4年	178	221	51	450	-
合計	689	843	218	1,750	9

(平成30年12月1日現在)

平成31年度 女子大学奨学金一覧表

※特記がない場合は学部・大学院共に対象。各奨学金の詳細は学生部窓口にお問い合わせください。

制度名				金額(円)	募集時期	貸・給別	備考
安倍能成記念教育基金奨学金				450,000	募集しない・推薦制	給付	採用1ヶ年 2年生以上対象
学習院女子大学学業優秀者給付奨学金				学部学生 150,000 大学院生 300,000	募集しない・推薦制	給付	採用1ヶ年 2年生以上対象
学習院女子大学大学院研究奨励金				大学院生 35,000	4月上旬	給付	在学期間合計2回限り
学習院女子大学学費支援給付奨学金				学部学生 第2期授業料相当額	4月中旬	給付	採用1ヶ年
学習院女子大学奨学金				大学院・学部学生 学費納付金相当額以内(通算二学期分以内)	4月中旬	貸与	採用1ヶ年 2年生以上対象
学習院女子大学教育ローン金利助成奨学金				在学中利子分給付(年50,000を上限)	11月上旬	給付	採用1ヶ年 毎年申請
学習院女子大学海外留学奨学金				500,000以内	G-Port	給付	
学習院女子大学海外留学奨学金 (交換によらない難関協定校への留学)				600,000以内	G-Port・掲示による	給付	
学習院女子大学海外短期語学研修奨学金				100,000以内	G-Port・掲示による	給付	
学習院女子大学海外ボランティア活動奨励金				100,000以内	G-Port・掲示による	給付	
学習院女子大学協定留学生奨学金				500,000以内	対象者へ個別通知	給付	協定留学生対象
学習院女子大学外国人留学生奨学金及び奨励金				奨学金 200,000	G-Port・掲示による	給付	毎年申請
				奨励金 300,000	G-Port・掲示による		毎年申請
学習院父母会奨学金				学部学生 授業料・施設設備費相当額	11月中旬	給付	採用1ヶ年 家計急変者に限り 在学中1回まで
日本学生支援機構	学部学生	第1種 (無利子)	平成30年度 以降入学者	自宅 月額20,000/30,000/40,000/ 54,000のいずれか 自宅外 月額20,000/30,000/40,000/50,000/ 64,000のいずれか	4月上旬	貸与	卒業月まで貸与
			平成29年度 以前入学者	自宅 月額30,000/54,000 のいずれか 自宅外 月額30,000/64,000 のいずれか	4月上旬	貸与	卒業月まで貸与
		第2種 (有利子)		月額120,000上限			
		大学院生	第1種 (無利子)	月額50,000または88,000	4月上旬	貸与	修了月まで貸与
	第2種 (有利子)		希望により貸与月額5万、8万、10万、13万、15万の いずれかを選択				
	日本学生支援機構 私費外国人留学生学習奨励費				月48,000	募集しない・推薦制	給付
その他公私機関による奨学金制度				その都度G-Port及び掲示参照			

平成31年度 学年暦

4月	春季休業	1(月)～6(土)	10月	和祭準備(休講)	11(金)
	新入生ガイダンス	1(月)～5(金)		和祭(休講)	12(土)、13(日)
	健康診断	1(月)、2(火)		和祭片付け(休講)	14(月)
	入学式	4(木)		開院記念日(休講)	17(木)
	雅祭	6(土)	11月	休日開講日	4(月)
5月	春学期授業開始	8(月)	12月	冬季休業	25(水)～1/8(水)
6月	開学記念日(開講日)	15(水)	1月	授業開始	9(木)
7月	休日開講日	15(月)		補講期間	21(火)、22(水)
	補講期間	23(火)、24(水)		秋学期末試験	23(木)～29(水)
	春学期末試験	25(木)～31(水)		秋学期授業終了(試験予備日)	30(木)
	春学期授業終了(試験予備日)	1(木)		学年末休講	31(金)～3/23(月)
8月	夏季休業	2(金)～9/20(金)	2月	秋学期追試験	12(水)、13(木)
	集中講義期間	2(金)、5(月)～8(木)	3月	卒業式	19(木)
9月	春学期追試験	12(木)、13(金)		在学生ガイダンス	23(月)～26(木)
	秋学期ガイダンス	18(水)～20(金)			
	秋学期授業開始	21(土)			
	休日開講日	23(月)			

通訳ボランティア

(英語コミュニケーション学科 4年 山崎 美萌)

ごきげんよう。英語コミュニケーション学科4年の山崎美萌です。2018年に台湾で行われたフィギュアスケート四大大陸選手権にて通訳ボランティアを務めてまいりました。

日本のIIBC (TOEIC運営の財団)による選考を受け、日本全国から集められた計6人の通訳ボランティアで現地の台湾人とともに大会運営を支えてまいりました。その中で私は上位3位入賞者による記者会見を担当し世界各国から集まったメディアの前で英語と日本語の通訳を務めました。私自身通訳という仕事は初めての上に、フィギュアスケートの専門用語が飛び交う中での通訳はプレッシャーを感じました。また宇野昌磨選手や宮原知子選手など世界から注目されている有名選

手を担当させていただいたことで、自分のミスで国際問題へ発展してしまうのではないかとという恐怖も感じました。しかし、日本人だけでなく多くの台湾人ボランティアの仲間に支えられ無事大役を務めることができました。

通訳という仕事は自分の感情を表現するものではなく、話者の発言をそのまま伝えなければいけないため、英語での日常会話とはまた違う難しさを痛感いたしました。この貴重な経験により私の英語力だけでなく、精神面においても大きく成長することができました。英語は世界とつながることができる素晴らしいツールであり、卒業後も英語を通して世界との懸け橋のような存在になれるよう努力してまいります。



学内表彰

団体	チアリーダー部	「第30回全日本学生チアリーディング選手権大会」 チームA DIVISION I 応援団部門 準優勝 チームB DIVISION II 応援団部門 準優勝 チームC DIVISION II 応援団部門 第3位 出場3チームが優秀な成績を収めたため。
個人	土谷 真由 (学習院大学漕艇部) 英語コミュニケーション学科3年	「第67回お花見レガッタ」において、女子シングルスカル部門・第5位、「第45回全日本大学選手権大会」において女子ダブルスカル部門・準決勝進出の優秀な成績を収めたため。
個人	伊東 夕奈 (競技ダンス部) 国際コミュニケーション学科4年	「第63回全日本学生競技ダンス選手権大会」において、タンゴ部門・第3位の優秀な成績を収めたため。
個人	中川 羽韻 (航空部) 国際コミュニケーション学科2年	「第22回原田覚一郎杯大学対抗グライダー競技大会」において、女子最優秀選手賞・滞空選手賞・個人第4位の優秀な成績を収めたため。
団体	書道部	「第7回全国佐久臨書展」にて、佳作1名、入選2名。「第70回毎日書道展」において、かなI類・入選1名、かなII類・入選1名の優秀な成績を収めたため。
個人	越沼 夏海 (きもの文化部) 国際コミュニケーション学科2年	「日本の心と美の祭典 2018全日本きもの装いコンテスト世界大会」において、振袖の部・第2位の優秀な成績を収めたため。
個人	辻 彩花 (きもの文化部) 国際コミュニケーション学科2年	「日本の心と美の祭典 2019全日本きもの装いコンテスト関東大会」において、装いの準女王(振袖の部首位)を受賞し、世界大会出場権を得たため。
個人	田中 綾乃 (きもの文化部) 日本文化学科3年	「日本の心と美の祭典 2019全日本きもの装いコンテスト関東大会」において、振袖の部・第1位を受賞し、世界大会出場権を得たため。
個人	松井 奈津美 (アイススケート愛好会) 国際コミュニケーション学科4年	「第91回日本学生氷上競技選手権大会」フィギュアスケートの女子5級クラスにおいて第8位の優秀な成績を収めたため。
個人	山之口 香蓮 (Makana aloha愛好会) 国際コミュニケーション学科2年	「第7回カレッジフラ・コンペティション2018」において、ソロ部門・第4位の優秀な成績を収めたため。
団体	図書館支援 さくらちゃんず愛好会	第20回図書館総合展「第4回図書館キャラクター・グランプリ」プレゼンテーション大会において、MC賞第1位および金剛賞を受賞したため。
個人	上野 佳世 日本文化学科3年	「第6回城西大学中国語スピーチコンテスト」において、西入間青年会議所賞を受賞したため。

新協定校が誕生しました！ ボーリンググリーン州立大学



学習院女子大学は、アメリカ合衆国のボーリンググリーン州立大学(Bowling Green State University以下、BGSU)と2018年5月11日付で交流協定を締結しました。

BGSUは1910年に創立された、アメリカ合衆国のオハイオ州ボーリンググリーン市にある州立大学で、芸術・科学、経営学、教育・発達科学等、7学部を擁しており、その研究力で評価されています。また、各種スポーツの盛んな大学としても知られています。

留学生に対するサポートが手厚いことが評価され、2018年5月にU.S. News & World Reportが発表した"Top Universities for International Students"の75位に位置づけられました。

日本語を学ぶ学生や日本に興味のある学生が参加する

Japanese clubの活動も非常に活発で、日本人留学生と現地学生との交流の機会となっているそうです。日本からの留学生は10名未満で、日本人が少ない環境で勉強することができます。



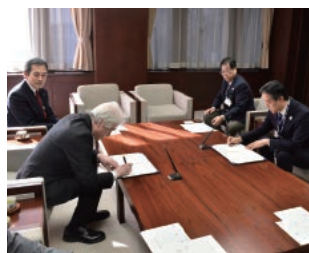
新宿区と「包括連携に関する協定」を締結

学習院女子大学はこのたび、新宿区と「包括連携に関する協定」を締結しました。これは、地域社会の発展、人材育成および学術と教育・文化の振興に寄与することを目的としたものです。

本学と新宿区は、今までも災害時の生活用水の確保や図書館の相互利用など、さまざまな分野で協力してきました。これまでに積み重ねてきた信頼関係を基礎とし、今回の協定により今後さらに相互の連携を深めていきます。

12月14日に行われた締結式で吉住区長は、本学が持つグローバル性や学生の柔軟な発想力への期待を述べられました。これを受け神田学長は、「新宿に開学し、発展してきた大学

として、この地で育まれてきた多くの卒業生やグローバル性といった価値を提供し、区のますますの発展に貢献していく」と応じました。



「第33回オール学習院の集い」開催のお知らせ

本院では、毎年4月に、学習院父母会、学習院校友会及び常磐会のご協力を得て「オール学習院の集い」を開催しています。

女子大学の学生団体も参加しますので、皆さんのお越しをお待ちしております。

なお、開会式及び大合同演奏会入場には、入場券が必要です。一般来場者席の入場券は、当日配付します。詳細は、平成31年3月中旬より学校法人学習院のホームページに掲載いたします。

- 日 時：平成31年4月14日(日)
午前9時30分～午後4時(雨天決行)
- 会 場：学習院目白キャンパス
(豊島区目白1-5-1)
- 備 考：詳細は、女子大学事務室の窓口で配付しているパンフレット又はホームページ
(<http://www.gakushuin.ac.jp/ad/somu/all/>)
をご覧ください。

C.A.T.ルームのごあんない

大学生活が、楽しく充実したものになることを願って、カウンセリングルーム(Come and Talk=C.A.T.ルーム)がおかれています。

自分の生き方、将来への足がかりを築くこの時期には、誰でもつまずいたり、悩んだりするものです。「悩むこと」によって、新しい扉が開かれていきます。「たいしたことじゃないわ…」と置いていても、それが胸にわだかまって、気になり続けていることはありません

か？悩むことを恥ずかしがらずに、どんな小さなことでも気軽に尋ねてください。ご父母の皆様からのご相談も承っております。

- 開 室 日 時：月曜日～金曜日 10:00～17:00
- 場 所：C.A.T.ルーム 4号館1階4134室
C.A.T.ルーム分室(談話室) 4号館2階
- 電 話：直通&FAX 03(3203)7169 分室 03(3203)7015
- カウンセラー：中川 真由美(月・火・水・木・金)
(臨床心理士) 他 非常勤カウンセラー 2名



学習院女子大学

学習院女子大学 事務統括部

〒162-8650 東京都新宿区戸山3-20-1

TEL 03-3203-1906 FAX 03-3203-8373

URL <http://www.gwc.gakushuin.ac.jp>